

七月一日ヨリ 午前七時始業正午終業

九月十日マテ 午前八時始業午後二時終業

九月三十日マテ 午前八時始業午後二時終業

十月一日ヨリ 午前九時始業午後三時終業

翌年三月廿八日マテ 午前九時始業午後三時終業

毎日教授時數五時ニ滿タサルモノハ學校長ニ於テ前項終始ノ時刻ノ範圍内ニテ適宜之ヲ定ムヘシ

特別ノ事情アリテ第一項ノ規定ニ依リ難キモノアルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

- 第十五條 祝日大祭日及日曜日ヲ除ク外小學校ノ休業日ハ左ノ如ク定ム
- 一 夏季休業 七月二十一日ヨリ八月二十日マテ
- 一 冬季休業 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日マテ
- 一 學年末休業 三月二十九日ヨリ三月三十一日マテ
- 一 學校所在地氏神祭日
- 一 學校設立紀念日

土地ノ情況ニ依リ製茶養蠶插秧等ノ時季ニ於テハ二週日間以内休業スルコトヲ得前項ノ休業ヲ爲ストキハ管理者又ハ設立者ニ於テ監督官廳ニ届出ツヘシ

右ノ外臨時休業ヲ要スルコトアルトキハ管理者又ハ設立者ニ於テ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三章 設備

第十六條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ開豁乾燥ニシテ衛生ニ適シ且兒童ノ通學ニ便利ナル場所ヲ選フヘシ

校地ハ道徳上嫌忌スヘキ場所喧鬧ニシテ教授ニ妨アル場所及危險ナル場所ニ接近セサルコトヲ要ス

第十七條 体操場ハ分テ屋外体操場及屋内体操場トス

屋外体操場ハ校地ニ接續シテ設クルヲ常例トシ方形若ハ之ニ類スル形狀ニシテ其ノ面積ハ左ノ例ニ依ルヘシ

一 尋常小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百坪以上トシ兒童百人以上ハ一人ニ付一坪以上ノ割合トス

二 高等小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百五十坪以上トシ兒童百人以上ハ一人ニ付一坪半以上ノ割合トス

三 尋常高等小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百五十坪以上トシ兒童百人以上ハ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童一人ニ付一坪以上ノ割合トス但兒童百人以上ニシテ高等小學校ノ教科ヲ修ムル兒童百

人未滿ナルトキハ百五十坪ノ外全校兒童中百人ヲ超ユル兒童一人ニ付一坪以上ノ割合ヲ以テ増スモノトス

四 特別ノ事情アルトキハ第二號及第三號ノ規定中一坪半ヲ一坪マテ減スルコトヲ得
屋内体操場ハ雨雪ニ堪フヘキ設備ヲ爲スコトヲ要ス

屋内体操場ハ之ヲ設ケサルコトヲ得

第十八條 校地内ニハ善良ナル飲料水ヲ供給スルノ備ヲ爲シ又下水渠ヲ設クヘシ

第十九條 學校ノ周圍ニハ適宜塀柵生垣ヲ設クヘシ

第二十條 校舍ノ建築ハ授業上、管理上、衛生上ノ便ヲ圖リ質朴堅牢ナランコトヲ要ス
校舍ハ平屋造ト爲スヘシ但特別ノ事情アルトキハ二階造ト爲スコトヲ得

第二十一條 校舍ニハ各學級ニ應スル通常教室並教員室ヲ設クヘシ

前項ノ外唱歌、裁縫ヲ課スル學校ニ於テハ便宜特別教室ヲ設ケ又必要ナル場合ニ於テ

ハ講堂、宿直室、湯沸所、小使室、器械標本室、物置等ヲ設クヘシ

第二十二條 兒童控所ハ成ルヘク之ヲ設クヘシ其ノ大ハ兒童八人ニ付一坪ノ割合ヨリ小ナルヘカラス

多級小學校ノ兒童控所ハ成ルヘク男女ヲ區別スヘシ

第二十三條 教室ノ構造ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

多級小學校ノ教室ハ幅三間以上四間以下長四間以上五間以下單級小學校ノ教室ハ幅及

長各四間以上五間以下ヲ常例トシ其ノ大ハ兒童一人ニ付三尺平方ノ割合ヨリ小ナルコトヲ得ス

天井ハ牀面ヲ距ルコト九尺以上トスヘシ

牀ノ高ハ二尺以上トシ牀下ノ四方ニ風抜ヲ設クヘシ

採光窓ハ南方ニ設クヘシ若シ止ヲ得サル事情アルトキハ東方東南方又ハ西南方ニ設クルコトヲ得

採光窓ノ總面積ハ牀面積ノ六分ノ一以上トシ其ノ下縁ノ位置ハ牀上凡二尺五寸ニ定メ其ノ上縁ハ牀上八尺五寸以上ニシテ成ルヘク天井ニ接近セシムヘシ但シ採光窓ノ上部ハ欄間ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

窓ハ兒童座席ノ前面ニ設クヘカラス且主タル光線ハ兒童座席ノ左方ヨリ採ルヘシ

教室ノ左右側ニ於テハ黑板ヲ掲クル壁ヨリ三尺以内ニ窓ヲ設クヘカラス

教室ノ壁ハ灰色淡黃色其ノ他ノ中性色ト爲スヘシ

各教室ニハ通常二箇ノ出入口ヲ設クヘシ

第二十四條 廊下ハ片廊下ヲ常例トシ其ノ幅六尺以上タルヘシ

二階造ノ校舍ニ於テハ二ヶ以上ノ階段ヲ設クルヲ常例トス

階段ハ幅四尺五寸以上上躓上五寸乃至六寸踏面八寸乃至一尺トシ成ルヘク曲折構造ト爲シ中間ニ踊場ヲ設ケ手欄ヲ附スヘシ

シ中間ニ踊場ヲ設ケ手欄ヲ附スヘシ

シ中間ニ踊場ヲ設ケ手欄ヲ附スヘシ

シ中間ニ踊場ヲ設ケ手欄ヲ附スヘシ

シ中間ニ踊場ヲ設ケ手欄ヲ附スヘシ

シ中間ニ踊場ヲ設ケ手欄ヲ附スヘシ

シ中間ニ踊場ヲ設ケ手欄ヲ附スヘシ

シ中間ニ踊場ヲ設ケ手欄ヲ附スヘシ

シ中間ニ踊場ヲ設ケ手欄ヲ附スヘシ

第二十五條 昇降口ハ成ルヘク男女ヲ區別シ且常風ノ方向ヲ避クヘシ

第二十六條 便所ハ別棟トシ夏季常風ノ方向ニ注意シ又井ヲ距ルコト四間以上ノ位置ニ之ヲ設クヘシ

糞壺、尿溝、注壁等ハ不滲透物ヲ以テ之ヲ造ルヘシ

便所ハ男女ヲ區別シ男兒百人ニ付大便所二以上小便所四以上女兒百人ニ付五以上ノ割合ヲ以テ之ヲ設クルヲ常例トス

第二十七條 尋常小學校ニ於テハ教科用圖書、參考用圖書、地圖、地球儀、度量衡、大小黑板、机、腰掛、時計、寒暖計、教授上必要ナル實物若ハ標本圖書ノ類、指數器、大算盤、普通体操及遊戯用器械其ノ他必要ナル器具器械及小學校ニ關スル法令等ヲ備フヘシ

高等小學校ニ於テハ教科用圖書、參考用圖書、地圖、地球儀、度量衡、時計、寒暖計、大算盤、机、腰掛、大小黑板、歴史、地理、理科、圖畫、裁縫ノ教授用具体操器械樂器身体檢査用具其ノ他必要ナル器具器械及小學校中學校高等女學校實業學校ニ關スル法令等ヲ備フヘシ

第二十八條 兒童用机及腰掛ノ寸方ハ第一號表ノ標準ニ依リ兒童ノ身長ニ適應セシメンコトヲ要ス

第二十九條 土地ノ情況ニ依リ成ヘク學校構内若ハ其ノ近傍ニ於テ教員ノ住宅ヲ設クヘシ第三十條 校舍ノ新築、増築、改築若ハ市町村立高等小學校及私立小學校ノ校地体操場ノ

撰定又ハ變更ノ認可ヲ受ケントスルトキハ市町村、町村學校組合又ハ設立者ニ於テ左ノ各號ヲ具シ稟申スヘシ

一 校舍ノ平面圖(縮尺二百分ノ一)

校地、方位各室ノ使用目的、窓、出入口、廊下、井戸、便所ノ位置ニ階造ノ校舎ニ於テハ階段ノ位置等ヲ見得ヘキモノタルヲ要ス

二 各室ノ牀ノ高、天井ノ高、窓ノ構造位置階段ノ構造高等

三 學校所屬區域内男女別學齡兒童數

四 學校所屬區域内學齡兒童中尋常小學校卒業男女別兒童數

五 各學年男女別兒童數及其ノ學級ノ編制

六 將來増加スヘキ見込ノ男女別兒童數

七 校地及体操場平面圖(縮尺六百分ノ一)

方位間口奥行ノ間數、反別、地番、地目、地種、所有地借用地ノ區別、四隣ノ情況、接續地ニ比シタル高低、建物ノ配置及校地ト体操場ト接續セサル場合ニ在リテハ其ノ距離道路等ヲ見得ヘキモノタルヲ要ス

八 校地体操場ニ要スル經費及出途

九 建築ニ要スル經費及出途

十 工事着手並竣工期限

校舍ノ新築、増築、改築ノ場合ニ於テ市町村立小學校ニ在リテハ前項第七號第八號私立小學校ニ在リテハ全第三號第四號第七號第八號校地体操場ノ選定又ハ變更ノ場合ニハ全第一號乃至第四號第九號(工事ヲ施サ、ルトキ)ヲ具スルコトヲ要セス

第三十一條 前條ノ工事竣成シタルトキハ遲滯ナク開申スヘシ

第三十二條 既設ノ小學校ニ在リテハ本章ノ規定中校舍ノ新築改築校具ノ新調等ニ際スルニアラサレハ適用シ難キモノハ其ノ時ヲ待テ之ニ依ルコトヲ得

第三十三條 本章ノ規定ハ補習科ノ設備ニ關シ之ヲ適用セス

第四章 就學

第三十四條 小學校令施行規則第八十四條ニ依リ學齡兒童保護者ニ於テ就學義務ノ免除又ハ就學ノ猶豫ヲ市町村長ニ申立ツルハ毎年二月二十日マテトス

第三十五條 小學校令第三十三條ニ依リ市町村長ニ於テ學齡兒童保護者ノ義務免除又ハ就學猶豫ノ認可ヲ受ケントスルトキハ毎年二月末日マテニ稟申スヘシ但貧窮ニ依ル義務ノ免除又ハ就學ノ猶豫ニ關シテハ其ノ事由ヲ詳記スヘシ

第三十六條 市町村長ハ小學校令施行規則第八十三條ニ依リ關係學校長ニ通知スヘキ入學兒童氏名書ニハ左ノ各號ヲ併記スヘシ

- 一 兒童ノ生年月住所
- 二 保護者ノ氏名住所職業兒童トノ關係

第三十七條 市町村長ニ於テ小學校令第三十六條第一項但書ニ依リ家庭又ハ其ノ他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ脩ムルコトヲ認可シタルトキハ其ノ事由兒童保護者兒童ノ族籍氏名教授者ノ族籍氏名生年月履歴ヲ具シ其ノ都度監督官廳ニ報告スヘシ

第五章 教員檢定

第三十八條 正教員ノ試験檢定ハ毎年十月一日(休日ナレハ翌日)ヨリ師範學校ニ於テ施行ス但必要ニ依リ臨時之ヲ施行スルコトアルヘシ

准教員試験檢定ハ毎年一回以上トシ其ノ期日及場所等ハ豫メ之ヲ告示ス

第三十九條 左ニ記載ノ科目ハ試験檢定ヲ行ハス

- 一 小學校本科正教員ノ音樂手工農業英語及女子ノ体操
- 二 小學校准教員ノ圖畫唱歌及女子ノ体操
- 三 尋常小學校本科正教員ノ漢文圖畫音樂數學科中ノ代數幾何歷史科中ノ外國歷史及女子ノ体操裁縫

四 尋常小學校准教員ノ理科圖畫唱歌及女子ノ体操

第四十條 無試験檢定ヲ出願シタル者ニシテ教員檢定委員會ニ於テ試験ヲ必要ト認メラレタルトキハ更ニ出願ヲ要セス次期ノ試験檢定ニ於テ檢定ヲ受クルコトヲ得

第四十一條 檢定ヲ受ケントスル者ハ第二號書式ニ依リ自筆ノ願書ヲ試験檢定ニ在リテハ其ノ期日前十五日マテニ縣廳ニ到達スヘキ様差出スヘク無試験檢定及小學校令施行

規則第百十三條ノ各號ニ該當スル者ニ在リテハ隨時縣廳ニ差出スヘシ
檢定願書ニハ履歷書(第三號書式)身体檢査書(第四號書式)ヲ添フヘシ

第四十二條 市町村長ハ檢定願書ヲ受ケタルトキハ左ノ各號ヲ調査シ其ノ調査ノ事項ヲ
記載シ願書ニ添付シ進達スヘシ

一 小學校令施行規則第百四條各號ニ該當スルヤ否ヤ

二 操行ノ概要

三 族籍氏名生年月等相違ナキヤ否ヤ

第四十三條 檢定並免許狀ノ書換又ハ再渡ヲ請フ者ハ左ノ手数料ヲ納付スヘシ

一 正教員ノ檢定 金壹圓

一 准教員ノ檢定 金五拾錢

一 免許狀ノ書換又ハ再渡 金貳拾錢

前項ノ手数料ハ既ニ納メタル後ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

第六章 小學校長及教員ノ進退

第四十四條 郡市長ニ於テ小學校教員ノ任用ヲ申請スルトキハ左ノ各號ヲ具スヘシ

一 事由

二 氏名及其ノ履歷

三 學校名及其ノ職名

四 俸給見込額

本縣内ニ於テ轉任ヲ申請スル場合ニハ第一項第二號中ノ履歷ヲ要セス

第四十五條 專科正教員又ハ小學校令施行規則第三十五條第三項ノ准教員ノ任用申請書

ニハ其ノ俸給額ニ關スル市參事會又ハ町村長ノ意見書ヲ徵シテ添付スヘシ其ノ増俸ヲ
要スルトキ亦全シ

一旦俸給額確定ノ上其ノ金額以内ニ於テ支出スル場合ハ前項ノ限リニアラス

本科正教員ノ俸給義務額ヲ超エテ支出ヲ要スルトキハ市町村町村學校組合及其ノ區ノ
同意書ヲ徵シテ添付スヘシ

第四十六條 小學校令施行規則第百二十二條第百二十六條ニ該當スル者アルトキハ郡市
長ハ其ノ事由ヲ具申スヘシ

小學校令施行規則第百二十二條第一號及全第百二十六條第一號ニ該當スル者ニ在リテ
ハ醫師ノ診斷書ヲ徵シテ添付スヘシ

小學校令施行規則第百二十六條第二號前段ニ該當スル者ニ在リテハ願書ニ醫師ノ診斷
書ヲ添付スヘシ

前二項ノ醫師診斷書ニハ左ノ各號ヲ詳記スルコトヲ要ス

一 住所氏名生年月

二 體質

三十四年
縣令第九號
以文號中
○點挿入○

- 三 病名
 - 四 遺傳歴
 - 五 既往症
 - 六 現在症
 - 七 原因
 - 八 診断
 - 九 經過
 - 十 豫后
 - 十一 療法
- 第四十七條 小學校令施行規則第二百二十三條ニ該當スル者ハ其ノ旨漏滞ナク届出ツヘシ
- 第四十八條 小學校令施行規則第三百二十二條ニ依リ届出ツル者ハ採用ノトキニ在リテハ校長教員ノ族籍氏名生年月並履歴ヲ記載シテ添付スヘク解職ノトキハ其ノ氏名事由ヲ記スヘシ
- 第四十九條 市町村立小學校准教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然退職者トス
- 一 當該學校ノ廢セラレタルトキ
 - 二 陸海軍現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタルトキ
- 前項第二號ニ該當シタル者ハ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

- 第五十條 市町村立小學校准教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ退職ヲ命ス
- 一 不具廢疾ニ依リ又ハ身体若ハ精神ノ衰弱ニ依リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ
 - 二 學校編制ノ變更ニ依リ過員ヲ生シタルトキ
 - 三 傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ依リ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退職ヲ出願シタルトキ
- 前項第一號第二號ニ該當シタル者アルトキハ郡長ハ其ノ事由ヲ具申スヘシ
- 第五十一條 前二條ノ事由ニ依ラスシテ退職ヲ命スル必要アリト認めタルトキハ特別ノ處分ヲナスコトアルヘシ
- 第七章 小學校長及教員ノ職務及服務
- 第五十二條 學校長ハ所屬教員ノ教授擔任ヲ定ムヘシ
- 第五十三條 學校長ハ所屬教員ニ對シ教授以外ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得
- 第五十四條 學校長事故アルトキハ上席教員其ノ職務ヲ代理スヘシ
- 第五十五條 學校長及教員疾病等ニ依リ欲勤スルトキハ出勤時刻前其ノ旨ヲ學校ニ届出ツヘシ
- 第五十六條 市町村立小學校長及教員疾病ニ依リ缺勤スルコト十五日ヲ踰ユルトキハ十五日毎ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ郡長又ハ市長ニ届出ツヘシ
- 第五十七條 市町村立小學校長及教員歸省慕參轉地療養及其ノ他ノ事故ニ依リ旅行セン

トスルトキハ郡長又ハ市長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十八條 市町村立小學校長及教員ノ忌引ハ郡長又ハ市長ニ届出ツヘシ其ノ除服ハ郡長又ハ市長之ヲ命スヘシ

第五十九條 市町村立小學校長及教員ニシテ學校ノ休業日中旅行セントスルトキハ郡長又ハ市長ニ届出ツヘシ

第六十條 市町村立小學校教員轉任退職若ハ休職ヲ命セラレタルトキハ學校長兼任ノ者ニ在リテハ其ノ校務ヲ後任學校長若ハ上席教員ニ其ノ他ノ教員ニ在リテハ其ノ擔任事務及其ノ保管ニ係ル文書物品等ヲ學校長ノ指揮ニ從ヒ遲滯ナク引繼ノ手續ヲナスヘシ其ノ免職失職ノ場合ニ於ケル亦同シ

第六十一條 市町村立小學校長及教員新任又ハ轉任ノトキハ辭令書接受ノ日ヨリ一週日間以內ニ赴任スヘシ若シ右期限内ニ赴任シ難キ事情アルトキハ其ノ旨ヲ具シ新任又ハ轉任地ノ郡長又ハ市長ノ許可ヲ受クヘシ

第六十二條 市町村立小學校長及教員ヨリ監督官廳ニ差出スヘキ書面ハ學校長及管理者ヲ經由スヘシ

第六十三條 學校長ハ事務取扱ニ關スル細則ヲ設クルコトヲ得

第六十四條 市町村立高等小學校長ハ小學校令施行規則第八十九條同第九十條ノ規定ニ準シ學籍簿及出席簿ヲ作ルヘシ

第六十五條 市町村立小學校長ノ作ルヘキ兒童出席簿ハ第二號表ノ様式ニ依ルヘシ

第六十六條 市町村立小學校長ハ毎月學校長及教員ノ出勤缺勤日數表ヲ調製シ翌月五日限郡長又ハ市長ニ差出スヘシ

第六十七條 本章中教員ニ關スル事項ハ代用教員ニ準用ス
第八章 市町村立小學校教員ノ俸給旅費其ノ他諸給與

第六十八條 教員ノ月俸額ハ左表ノ如ク定ム

職名	一級		二級		三級		四級		五級		六級		七級		八級		九級		十級		
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	
本科正教員	七十五圓	六十五圓	六十圓	五十五圓	五十圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十六圓	十三圓	十一圓	九圓						
專科正教員	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十六圓	十三圓	十一圓	九圓												
准教員	二十圓	十六圓	十三圓	十一圓	九圓	七圓															
	十八圓	十四圓	十二圓	十圓	八圓	六圓															

第六十九條 本科正教員ニシテ一級上俸ヲ受ケ特ニ功勞アル者ニハ漸次百圓マテ増スコ

トアルヘシ

第七十條 本科正教員及准教員ノ俸給額ハ當分ノ内等級相當ノ俸給額ヲ減シ又最下額ハ明治三十年勅令第二號第六條ノ金額マテ減スルコトアルヘシ

第七十一條 専科正教員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應シ等級相當ノ俸給額ヲ減スルコトアルヘシ

第七十二條 専科正教員ニシテ他ノ小學校ノ専科正教員ヲ兼ヌル者ニハ關係學校ノ經費ヨリ其ノ俸給ヲ分割シテ給スルコトアルヘシ

第七十三條 俸給ハ本人ノ意ニ反シテ之ヲ減スルコトナシ

第七十四條 俸給ハ毎月二十一日之ヲ給ス但休日ニ當ルトキハ繰下トス

第七十五條 俸給ハ新任増俸減俸轉任復職トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス

第七十六條 退職休職又ハ死亡ノトキハ其ノ月俸給ノ全額ヲ給ス

第七十七條 退職者並俸給ヲ受ケサル休職者ニシテ事務引繼殘務調理等ノ爲特ニ命ヲ受ケテ校務ニ從事シ翌月ニ涉ルトキハ其ノ間日割ヲ以テ尙從前ノ俸給ヲ給ス

第七十八條 傷痍疾病ノ爲執務セサルコト三十日ヲ踰ユル者ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減シ六十日ヲ踰ユル者ハ其ノ三分ノ二ヲ減シ九十日ヲ踰ユル者ハ其ノ俸給ヲ給セス但

職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ハ此限ニ在ラス

私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト十五日ヲ踰ユル者ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減シ三

十日ヲ踰ユル者ハ其ノ俸給ヲ給セス

第七十九條 正當ノ理山ナクシテ缺勤スル者ハ其ノ間俸給ヲ給セス

第八十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ給ス

一 懲戒ニ依リ免職ニ處セラレタルトキ

二 免許狀褫奪又ハ免許狀ノ失効ニ依リ教員ノ職ヲ失ヒタルトキ

第八十一條 陸軍六週間現役ニ服スル者ハ其ノ服役中日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減ス

第八十二條 學校休業又ハ忌引ノ場合ト第七十八條第一項又ハ同第二項ノ場合ト連續ス

ルトキハ其ノ學校休業若ハ忌引ノ日數ハ減俸トナルヘキ缺勤日數中ニ算入セス又第七

十八條第一項ノ場合ト同第二項ノ場合ト連續スルトキハ之ヲ通算セス

第八十三條 俸給ヲ給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ切捨トス

日割計算ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル

第八十四條 休職者ニハ俸給ヲ給セス但知事ニ於テ市町村町村學校組合又ハ區ノ同意ヲ

得タルトキハ其ノ一部若ハ全部ヲ給スルコトアルヘシ

第八十五條 在職ノ儘小學校教員講習科ニ入學スル者ニハ前條ヲ準用ス

第八十六條 陸軍給與令又ハ海軍々人俸給令ニ依リ俸給ヲ受クル者ニハ其ノ間俸給ヲ給

セス但其ノ額本職ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給ス

第八十七條 在職又ハ休職中死亡シタルトキハ其ノ在職最終ノ給料月額三ヶ月分ヲ其ノ

遺族ニ給ス

第八十八條 教員ノ旅費ハ左表ノ如ク定ム

職名	汽車賃ニ付		船賃ニ付		車馬賃ニ付		宿泊料ニ付		日當ニ付
	管内	管外	管内	管外	管内	管外	管内	管外	
正教員	四	四	四	四	十五	十五	壹	五	十
	四	四	四	四	十二	十二	七	十	十
准教員	三	三	三	三	十	十	四	十	三
	三	三	三	三	十	十	四	十	三

第八十九條 汽車旅行ニハ哩數ニ應シ汽車賃ヲ水路旅行ニハ海里數ニ應シ船賃ヲ其ノ他ノ旅行ハ陸路旅行トシ里數ニ應シ車馬賃ヲ給ス

宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シ之ヲ給ス但水路旅行ニハ宿泊料ヲ給セス

第九十條 強雨積雪又ハ道路險惡ノ爲定額ノ車馬賃ニテ支辨シ難キ場合ニハ定額ニ倍以內ノ車馬賃ヲ給スルコトヲ得

第九十一條 汽車賃船賃車馬賃ハ旅行ノ種類毎ニ經過セル路程ヲ合算シテ之ヲ給ス但一位未滿端數ノ路程ハ切捨トス

第九十二條 陸路六里未滿汽車十哩未滿水路十海里未滿ノ旅行ニハ日當ヲ給セス但公務

ノ都合ニ依リ宿泊シタルトキハ日當ハ宿泊料ヲ給ス

第九十三條 赴任ノ場合ニハ舊任地ヨリ新任地マテ汽車賃船賃及車馬賃ニ限り定額ノ二倍ヲ給ス

第九十四條 旅行中私事ノ爲許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シ旅費ヲ給ス

第九十五條 旅行中休職退職若ハ死亡ノ者ニハ本職又ハ前職相當ヲ以テ舊任地マテノ旅費ヲ給ス但刑事裁判又ハ懲戒處分ニ依リ退職ノ者ハ此限ニアラス

第九十六條 前二條ノ場合ニ於テ日數ノ計算方ハ汽車旅行ハ一日二百哩詰水路旅行ハ一日百海里詰陸路旅行ハ一日十二里詰トス但數種ノ旅行相跨ルトキハ各其ノ路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行ヲ十二時間トシ通算上ヨリ生スル一日未滿ノ端數ハ一日トシテ之ヲ計算ス

第九十七條 旅行中川留雪支等ノ爲他所ヲ迂回シ若ハ滞在シ又ハ疾病ノ爲滞在シタルトキハ旅費ヲ給ス此場合ニ於テハ川留雪支ハ確實ナル証明書ヲ取り疾病ハ醫師ノ診斷書ヲ取り差出スヘシ

第九十八條 事務引繼殘務調理等ノ爲退職者ニ旅行ヲ命スルキハ前職相當ノ旅費ヲ給ス

第九十九條 新ニ任用スル爲召喚スルトキハ本職相當ノ旅費ヲ給ス

第百條 一週三十時ヲ超エ教授ヲ擔任スル者ニハ手當ヲ給ス

第一百一條 特ニ勤勞アル者ニハ慰勞金ヲ給スルコトアルヘシ

第一百二條 宿直スル者ニハ賄料ヲ給スヘシ

第一百三條 職務ノ爲傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ニハ療治料ヲ給スヘシ

第一百四條 土地ノ情況ニ依リ住宅料ヲ給スヘシ

第一百五條 第一百條及第一百一條ニ依リ給スル金額ハ知事ニ於テ管理者ノ意見ヲ聞キテ之ヲ決定シ第一百二條乃至第一百四條ニ依リ給スル金額ハ管理者ニ於テ之ヲ決定シ遲滯ナク申報スヘシ

第九章 市町村立小學校代用教員ノ俸給旅費其ノ他諸給與

第一百六條 代用教員ノ月俸額ハ四圓以上二十圓以下トス

第一百七條 第七十三條乃至第八十條第八十二條第八十三條第八十六條及第八十八條乃至

第一百四條ノ規定中准教員ニ關スル事項ハ代用教員ニ準用ス

第一百條第一條ヲ準用シテ給スル金額ハ市ニ在リテハ市長之ヲ決定シ町村ニ在リテハ郡長ニ於テ管理者ノ意見ヲ聞キテ之ヲ決定シ第一百二條乃至第一百四條ヲ準用シテ給スル金額ハ管理者ニ於テ之ヲ決定シ監督官廳ニ申報スヘシ

第十章 區長及其ノ代理者

第一百八條 市町村町村學校組合ノ區長及其ノ代理者ハ市町村長町村學校組合長ノ指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行スヘシ

第十一章 幼稚園及小學校ニ類スル各種學校

第一百九條 小學校令第十七條ニ依リ幼稚園設置ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ各號ヲ具シ稟申スヘシ

一 名稱

二 位置

三 市町村立私立等ノ區別

四 一日保育ノ時數

五 幼兒數及其ノ組數

六 保姆ノ員數

七 保育料

八 維持法及經費

九 敷地建物ノ坪數及其ノ畧圖

畧圖ニハ各室ノ使用目的坪數窓ノ位置遊園及其ノ坪數等ヲ記載スルヲ要ス

十 飲料水ノ良否

幼稚園ヲ小學校ニ附設セントスルトキハ前項ノ外尙其ノ事由ヲ具シテ稟申スヘシ
幼稚園ヲ廢止シ又ハ第一項第二號及第九號ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ認可ヲ受クヘク其ノ他ノ各號ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滯ナク届出ツヘシ

但幼兒數ニ増減アルモ組織ニ異動ヲ生セサルモノハ此限ニアラス
 第一百十條 市町村立幼稚園長又ハ保姆ノ採用ハ第四十四條ヲ準用シ解職ハ其ノ事由ヲ具シ申請スヘシ

私立幼稚園長又ハ保姆採用ノ届書ニハ本人ノ氏名年齢及其ノ履歷ヲ具スヘシ

第一百十一條 盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ニハ前二條ヲ準用ス

第一百十二條 市町村立盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ノ學校長教員及幼稚園長保姆ノ職務及服務ハ第七章ヲ準給旅費及諸給與ハ第八章ヲ準用ス

第十二章 附則

第一百三條 本規程第二章第八章第九章ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第一百四條 従前ノ規定ニシテ本規程ニ抵觸スルモノハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス

第一號表

項目	番號	一號	二號	三號	四號	五號
身長		一〇〇以上 一〇〇未滿 (三三、〇〇以上) (三三、〇〇未滿)	一一〇以上 一一〇未滿 (三三、〇〇以上) (三三、〇〇未滿)	一二〇以上 一二〇未滿 (三三、〇〇以上) (三三、〇〇未滿)	一三〇以上 一四〇未滿 (三三、〇〇以上) (三三、〇〇未滿)	一四〇以上 一五〇未滿 (三三、〇〇以上) (三三、〇〇未滿)
机ノ高		一五、五〇	一七、〇〇	一八、五〇	二〇、〇〇	二一、五〇

机ノ幅	机ノ長 (三人掛)	腰掛ノ高	腰掛ノ幅	腰掛ノ長 (二人掛)	倚		靠
					男兒用 高	女 高	
一一、〇〇	三〇、〇〇乃至 三六、〇〇	八、六〇	八、二〇	二六、〇〇乃至 三二、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	一〇、〇〇
〇	〇	九、四〇	九、〇〇	〇	五、四〇	四、四〇	一〇、八〇
〇	三六、〇〇	一〇、二〇	九、八〇	三二、〇〇	五、八〇	四、八〇	一一、六〇
〇	〇	一一、〇〇	一〇、六〇	〇	六、二〇	五、二〇	一二、四〇
〇	〇	一一、八〇	一一、四〇	〇	六、六〇	五、六〇	一三、二〇

本表中身長欄ハ一センチメートルニ其ノ括弧内ノ數及机ノ高以下ハ曲尺ノ寸ヲ以テ一位トス
 第二號表(用紙美濃紙)

三重縣何郡(市)何町村立何尋常(高等又ハ尋常高等)小學校第何級第何學年兒童出席簿

番號	兒童氏名	出席簿																			
		一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

年月日

三重縣何郡町村
何小學校長氏名印

番號

第二號書式

小學校教員檢定願

某 儀

三重縣内ニ於テ小學校教員志願ニ付小學校本科(專科又ハ尋常小學校本科)正教員(小學校又ハ尋常小學校准教員)ノ試験檢定(無試験檢定)相受度履歷書並体格檢査書相添此段相願候也

年月日

何府縣士族(平民)
本籍 府縣郡市村番地
現住所全前
誰子女兄弟姉妹
氏 名 印

第三號書式(用紙美濃紙)

知事宛

履歷書

氏 名

生年月

學業

一 年月日何學校ニ入學年月日何科卒業證書寫別紙ノ通
一 年月日何々ニ依リ何免許狀ヲ受ク免許狀寫別紙ノ通

業務

一 年月日何官職拜命或ハ何業ニ從事年月日依願免官或ハ廢業又ハ現今在職從事等

賞罰

一 年月日何所ニ於テ何々ニ付何賞ヲ受ク或ハ何罰ヲ受ク
右ノ通相違無之候也

年月日

右

何 某 印

第四號書式(用紙美濃紙)

身体検査書

族籍

何

某

生年月

一 体格

一 身長

一 体重

一 胸圍

一 中心視力(色盲眼病)

一 聽力(耳疾)

一 呼吸器

一 神経系

一 皮膚

一 言語

一 既往現在ノ疾病又ハ畸形

右検査候處相違無之候也

年月日検査

住所何學校醫(開業醫)

何

某印

○自明治三十三年一月二日 三重縣訓令之部

○三重縣訓令甲第一號 三十三年一月十六日

郡役所 警察署 全分署
監獄支署 縣立學校 驅微院
明野勸農場 縣金庫

明治三十一年(六月)訓令甲第五十二號三重縣々有財産管理規程第二條但書及第八條縣會ノ議決ヲ經テ左ノ通り改定ス

第二條(元ノ如シ)

但縣金庫事務ヲ三重縣農工銀行ニ取扱ハシタル場合ニ於テハ縣參事會ノ議決ヲ經テ擔保徵セサルコトヲ得

第八條 財産ハ縣參事會ノ議決ヲ經テ公共ノ使用ニ供シ又ハ公衆ニ便益アル事業ノ爲其使用ニ供セシムルコトヲ得

○三重縣訓令甲第二號 三十三年一月十六日

伊賀國ヲ除ク

郡市役所 警察署

全分署 町村役場

明治三十三年一月 三重縣訓令

一五四

陸軍召集條例第三條ニ依リ第三師團召集事務取扱規則別冊ノ通被定候旨同師團長ヨリ通知有之候條右相心得ヘシ
(別冊ハ別ニ頒ツ)

三重縣訓令甲第二號別冊

第三師管召集事務取扱規則

明治三十三年一月 三重縣訓令

一五五

義第六號

第三師管召集事務取扱規則別冊之通り定ム

明治三十三年一月十四日

第三師團長 男爵 大島 義昌

第三師管召集事務取扱規則

第一章 總則

第一條 本規則中條例トアルハ陸軍召集條例ヲ細則トアルハ全條例施行細則ヲ謂フ

第二條 召集事務ノ取扱ハ別ニ定メアルモノ、外ハ本規則ニ依ルヘシ

第三條 本規則ニ定ムル書類ノ進達期日ハ總テ書類到達ノ日時ヲ指ス

第四條 充員召集事務ニ關スル書類ハ必ス他ノ書類ト類別シテ確實ニ之ヲ保管スヘシ

第五條 前條ノ書類ニシテ某年何月何日ヨリ効力ヲ有スト記載シアル書類ハ其翌年四月

一日發ヲ以テ各其發送官衙ニ返納スヘシ

但此書類ヲ返納スルニハ書類ノ名稱發送番號及ヒ受領ノ年月日ヲ記入シタル返納証

目錄ヲ添附スルモノトス

第六條 充員召集ニ關スル書類ニシテ秘密ニ屬スルモノヲ發送スルニハ其書類ノ封筒ニ

ハ必ス「動」字ヲ朱書シ且親展書トナシ更ニ之ヲ他ノ封筒ニ納メ此封筒上ニハ宛名ノ傍

ニ「至急」ノ文字ノミヲ附記スヘシ

第七條 條例第四條ニ依リ地方長官及ヒ憲兵隊長ハ其所部召集事務ノ整否ヲ檢閲シ又ハ

部下官吏ヲシテ檢閲セシメタル片ハ之ヲ意見ヲ附シ師團長ニ通報スヘシ

第二章 準備事務

第八條 召集旅費ノ支給ヲ爲スヘキ出納官吏ハ其支給スヘキ旅費金ノ概算ヲ以テ貨幣ノ

區分ヲ定メ動員發令ノ際其區分ニ依リ旅費金ヲ受領シ得ル如ク豫メ金庫ニ特約シ置ク

ヘシ

第九條 地方長官ハ條例第十八條ニ依リ軍用旅舎ヲ定メタル片ハ其町村名番地家號舍主

ノ氏名及ヒ召集ヲ容易ナラシムル爲メニ措置シタル事項ヲ師團長及ヒ聯隊區司令官ニ

通報シ且軍用旅舎ニ關シテハ管下一般ニ告示スヘシ

第十條 地方長官及ヒ憲兵隊長ハ細則第十六條及ヒ第十八條ニ依リ召集事務所及ヒ其他

ニ於ケル諸準備ヲナスニハ豫メ聯隊區司令官ト協議シテ之ヲ定メ其準備シタル事項ハ

師團長ニ通報スヘシ

第十一條 郡市長ハ充員召集旅費支給場ノ位置及ヒ其區域ヲ豫定シ毎年八月一日迄ニ聯

隊區司令官ニ差出スヘシ但某年ニ於テ前年ノ分ト差異ナキ時ハ單ニ其旨ヲ聯隊區司令

官ニ通報スヘシ

第十二條 細則第一條ニ依リ作ルヘキ動員手簿ハ秘密ノ取扱ヲナスヘシ

第十三條 郡長ハ附表第一ニ基キ充員召集令狀送達時間調査表ヲ附表第二ニ據リ調製シ

毎年十一月十五日迄ニ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

本年訓令
第五號ヲ
以本條中
〇〇點改

第十四條 市町村長ハ附表第二ノ様式ニ準シ充員召集令狀交附時間調査表ヲ製シ市長ハ毎年十一月十五日迄ニ聯隊區司令官ニ町村長ハ毎年十一月十一日迄ニ郡長ニ差出スヘシ

第十五條 郡市長及ヒ旅費支給ヲナスヘキ町村長ハ天變水害等ノ爲メ仕拂命令官ヨリ發送スル命令金庫ニ遲着スルコトアルモ應召員ヲシテ到着期日ニ遅レサル如ク適宜ノ處置ヲ爲スヘシ

第十六條 郡市町村長ハ充員召集令狀發送又ハ交附ノ爲メニ要スル使丁ヲ豫メ特約シ置クヘシ

第十七條 前條ノ使丁ハ身元確實ナルモノヲ撰定シ且其員數ハ郡内最遠ノ町村役場ヘ召集令狀ヲ發送シ終ル間ニ全役場ヘ配布シ終ルヲ度トシテ其員數ヲ規定スヘシ

市町村長ノ各應召員ヘ召集令狀ヲ交附スルモ亦前項ニ全シ

第十八條 條例第八條ニ依リ町村長ノ調製スヘキ在郷軍人名簿及ヒ第一國民兵名簿ハ附表第三及第四様式ニ準シ作ルヘシ

第三章 實施事務

第十九條 地方官衙及ヒ公署吏員ハ條例第二十一條ニ依リ届出ル者アルトキハ本人所命ノ地ニ到着シ能ハサルモ最寄軍隊ニ到ルヲ得ルニ至レハ事由證明書ヲ附與シ該軍隊ニ向テ出發セシムヘシ

第二十條 市町村長ハ召集令狀交附ニ際シ之ト共ニ應召員留守担当者ノ氏名ヲ第五様式ニ依リ調製シテ之ヲ交附スヘシ

第二十一條 出納吏旅費支給場ニ至ル途中ニ於テ官金ノ護衛ヲ要スル時ハ最寄ノ憲兵又ハ警察官吏ニ之ヲ要求スヘシ

前項ノ要求ヲ受ケタルキハ憲兵又ハ警察官吏ハ速ニ之ニ應スヘシ

第二十二條 郡長ハ細則第二十七條ニ依リ聯隊區司令官ニ差出スヘキ令狀發送及ヒ交附人員表ハ附表第六ノ様式ニ依リ調製スヘシ

第二十三條 市町村長ハ細則第二十三條ニ依リ聯隊區司令官、郡長及ヒ憲兵又ハ警察官ニ通知若クハ報告スヘキ人員等ハ附表第七様式ニ依リ調製スヘシ

第二十四條 町村長ハ條例第二十九條第二項ニ依リ應召員ニ出發ヲ命スル時召集令狀ノ裏面ニ出發延期ノ理由并ニ其出發日時ヲ記入シ之ニ記名捺印スヘシ

第四章 演習召集

第二十五條 聯隊區司令官ハ細則第五十二條ニ依リ師團長ニ報告スヘキ人員表ハ附表第八乃至第十一ノ様式ニ依リ調製スヘシ

第二十六條 聯隊區司令官ハ細則第七十四條ニ依リ師團長ニ差出スヘキ令狀發送表ハ附表第六ノ様式ニ依リ調製スヘシ

第二十七條 聯隊區司令官ハ條例第七十二條ニ依リ師團長ニ差出シ又ハ地方長官憲兵隊長

等ニ通知スヘキ簡閱點呼日割表ハ附表第十二ノ様式ニ依リ調製スヘシ

附則

第廿八條本規則ハ明治三十三年一月廿日ヨリ施行ス
但明治三十一年六月義第五〇六號第三師管召集事務取扱手續ハ本規則施行ノ日ヨリ
廢止ス

附第一

充員召集令狀送達時間調査表

明治何年何月何日
何府(縣)何郡

町(村)名	郡役所ヨリ 町村役場ニ 到ル里程	使丁數	送達時間	町村役場ヨリ充員召集令狀ヲ各自ニ交付シ終ル迄ノ時間	計
何町	何里	二	何時何分	何時何分	何時何分
何村	何里	二	何時何分	何時何分	何時何分
何々何町	何里	二	何時何分	何時何分	何時何分

- 一、時間分時迄里數ハ町數迄ヲ記スヘシ
- 二、町、村名ハ使丁差遣ノ順序ニ記載スヘシ

三、送達時間ヲ調査スルニハ事務整理ノ爲メ消費スル時間ノ最大限ヲ四時間最少限ヲ一時間トナシ此最少限ノ時間ヲ郡役所ヲ距ル最遠ナル町村ニ送達スル時間ニ加ヘテ送達時間ノ區畫ニ之ヲ記入シ而シテ町村ノ送達順序ニ應シテ逐次整理時間ノ遞加シタルモノヲ各送達時間ニ加ヘ終ニ最大限ノ四時間ヲ加算スルニ至ル如ク之ヲ調査スヘシ

四、前項送達時間ニ逐次加算シタル事務整理ノ時間ハ各送達時間ノ左傍ニ朱記スヘシ
附表第二

充員召集令狀交附時間調査表

明治何年何月何日
何府(縣)何市(町、村)

市役所ヨリ(町、村)役場ヨリ市(村)内住民ノ最遠住宅迄ノ距離	何里	何町
在郷軍人ノ數	歸休	何人
	豫備	何人
	後備	何人
	第一補充兵	何人
	第二補充兵	何人

充員召集令狀交付ニ用ユル使丁人員及使用區域ノ數
充員召集令狀交付ノ爲メ消費スル最大時間

何人、何區
何時、何分

- 一、時間ハ分時迄里數ハ町數迄ヲ記スヘシ
- 二、事務整理ノ爲メ消費スル時間ハ市ニ在テハ最大限三時間、最少限一時間、町村ニ在テハ一時トシ又充員召集令狀ヲ各應召員ニ交付スル爲メ費ス時間ヲ約十分トシ計算スヘシ
- 三、一充員召集令狀交付ノ爲メ消費スル最大時間ノ區畫ニハ各使丁ノ充員召集令狀交付ノ爲メ費ス時間中其最大ナルモノヲ記入スヘシ
- 四、前項充員召集令狀交付ノ時間中ニハ事務整理ノ時間ヲ加算スヘキモノニシテ市ニ在テハ其使丁ノ發遣順序ニ從ヒ一時間乃至四時間ノ事務整理時間ヲ適當ニ配賦加算シ町村ニ在テハ使丁中充員召集令狀交付ニ最モ多クノ時間ヲ要スルモノニ其整理時間ヲ加算スルモノトス
- 五、在郷軍人ノ數ハ現在員ニ依リ調査スヘシ
- 六、休職及停職ノ將校全相當官及ヒ准士官并ニ未入營現役兵ハ歸休ノ區畫ニ加算スヘシ

附表第三

何市(町)(村)在郷軍人名簿

何市(町)(村)役所(場)

住所	徵集年	役別	官兵等種	特業	氏名	摘要

備考

- 一、一年志願兵及第證書所持者ハ志ノ字ヲ士官、下士適任證書所持者ハ適ノ字ヲ其他特業ノ者ハ各其特業ノ頭字ヲ特業ノ區畫ニ朱書スヘシ
- 二、本名簿ハ將校、下士、兵卒ヲ豫備、後備役毎ニ各兵種毎ニ調製シ將校、下士、兵卒ノ各間ニハ適宜ノ餘地ヲ存シ且ツ之ニ見出ヲ付スヘシ
- 三、通報人ノ定メアルモノハ其氏名住所ヲ當該應召者ノ姓名欄中ニ添付シ置クヘシ
- 四、用紙ハ美濃紙

附表第四

何市(町)(村)第一國民兵名簿

何市(町)(村)役所(場)

住所	誕生年月日	編入年月日	元兵種等	氏名	摘要

備考

- 一、國民兵編入志願者ハ志ノ字ヲ各特業者ハ其特業ノ頭字ヲ氏名ノ右肩ニ朱書スヘシ
- 二、元下士、兵卒ヲ各別ニ步、騎、砲、工、輜重兵ノ順序ニ元階級ニ從ヒ年齡ノ若キモノヨリ順序ニ調製スヘシ

附表第三及第四ノ二

在郷軍人(第一國民兵)名簿

何郡何町村役場

用紙厚紙

附表第五

何縣何郡(市)町(村)
 兵種官等 氏名
 右留守擔當者ハ左ノ如シ
 全市町(村)大字番地
 何之誰

大キサ軍隊手牒ニ同シ

附表第六

充員召集令狀發送交附人員表

町村名	令狀總數	聯隊區司令官ヨリ充員召集令ヲ受領シタル月日時刻	郡長令狀ノ發送ヲ終リタル月日時刻	町村長令狀ヲ受領シタル月日時刻	町村長令狀ノ發送ヲ終リタル月日時刻	各自ニ令狀ヲ交附シタル月日時刻	令狀ヲ交附シタル人員	令狀ヲ交附シ得サル人員
何町	一〇〇	月日時	全上	全上	全上	全上	九五	五
何村		右同						

附表第七

充員召集令狀發送及交附人員表

令狀受領數	郡長ヨリ令狀ヲ受領シタル月日時刻	令狀發送時刻	令狀ヲ交附シタル月日時刻	令狀交附人員	令狀ヲ交附シ得サル人員
總					

一〇〇月 日 時 月 日 時 月 日 時 九五 五

右及(報告)候也

年月日

市町村長氏名

印

郡長(聯隊區司令官)宛

備考 市長ニ在テハ第二欄ニ聯隊區司令官ヨリ召集令ヲ受ケタル月日時刻ヲ記ス

ルモノトス

附表第七ノ二

充員召集令狀ヲ交附シ得サル(事故)不(應)者(者)人名表

事由 住所 兵役官等 姓名

全戸所在不明 何村大字何番地 豫備歩兵曹長 何 某

失 踪 第一補充兵歩兵

右及(報告)候也

年月日

市町村長氏名

印

郡長(聯隊區司令官)(憲兵警察官)宛

附表第七ノ三

充員召集令狀ヲ交附シタル人名表

部隊號 到着地 到着期日 住所 兵役官等 姓名
何 隊 何 々 月 日 何村大字何番地 豫備歩兵曹長 何 某

右及通知候也

年月日

市町村長氏名

印

憲兵警察官宛

附表第八

明治何年

第一補充兵現員表

聯隊區

兵種	徵集年				計
	二十九年	三十年	三十一年	三十二年	
步兵					
騎兵					
何兵					
何兵					

計

備

一、本表ハ未教育者ノミ調査スヘシ

二、本表ハ二月十日迄ニ報告シ召集前ノ異動ハ其都度報告スヘシ

考

三、入寄留ハ朱冠シ別記スヘシ

附表第九

明治何年 豫備役(後備役)將校全相當官演習召集豫定人名表 聯隊區

項目	豫(後)備役編入年月日	摘要	兵種官姓名
一			
五			
九			
十			

備

一、近衛師團ニ於テ現役ヲ終リタル者ハ近ノ字ヲ朱冠スヘシ
 二、本表ハ召集區分令達后十五日以内ニ報告シ召集前ニ異動ヲ生シタルトキハ其

考 三、入寄留者ハ入寄ト朱冠スヘシ
都度報告スヘシ

附表第十

明治何年 豫備役(後備役)下士以下演習召集豫定人員表 聯隊區

項目	兵階					步				
	種	階	級	次	卒	軍曹	適上	上	卒	擔
七	二年									
	三年									
	四年									
	五年									
	計									
八	二年									
	三年									
	四年									
	五年									
	計									
九	二年									
	三年									
	四年									
	五年									
	計									

兵										
工						兵				
曹長	軍曹	第一補充兵	建伍長	築上	術卒	通曹長	軍曹	信伍長	術上	架

計

備考

- 一、近衛師團ニ於テ服役ヲ終リタルモノハ朱書ニテ別記スヘシ
- 二、召集條例施行細則第五十三條該當ノ者ハ別ニ調製スヘシ
- 三、本表ハ召集區分令達後十五日以内ニ報告シ召集前ニ異動ヲ生シタルキハ其都度報告スヘシ
- 四、入寄留者ハ入寄ト朱冠別記スヘシ

附表第十一

明治何年

一年志願兵終末試験及第証書及士官適任証書所持者人名表

聯隊區

年	証書附與月日	原	隊	原	籍	摘要	官	姓	名

備考

- 一、本表ハ前表ト全時ニ差出スヘシ
- 二、原隊他師管ノモノモ調査スヘシ
- 三、士官適任証書ヲ所持スルモノハ士ノ字ヲ朱冠スヘシ
- 四、入寄留者ヲ區別スヘシ

附表第十二

明治何年 簡閱點呼區域并ニ日割表

聯隊區

點呼場	區	域	人員	點呼日時	發着日
何郡何町	何々		一〇〇	何月何日午前 (后)何時	何月何日發 何月何日着

考備

○三重縣訓令甲第三號 三十三年一月十九日

郡市役所

明治二十四年(一月)本縣訓令甲第五號三重縣報告例中郡會議員選舉調ヲ左ノ通改正ス

發送期日總選舉後二十日以内

報年	郡會議員選舉被選舉調		郡名	
	何郡會	選舉年月日	選舉權ヲ有スル者	被選舉權ヲ有スル者
合計				

一本表ハ總選舉毎ニ調査ス可キモノトス

○三重縣訓令甲第四號 三十三年一月廿三日

郡役所 警察署

海軍召集條例第二十五條及第四十五條ノ達ヲ受ケタル片ハ郡長ハ町村長ハ警察署長ハ警

察分署長并巡查駐在所へ通達スヘシ

但警察分署ノ管轄内ニアル巡查駐在所へハ同分署長ヨリ通達スヘシ

○三重縣訓令甲第五號 三十三年一月三十一日

伊賀國ヲ除ク

郡市役所 警察署

全分署 町村役場

明治三十三年(一月)本縣訓令甲第二號別冊第三師團召集事務取扱規則中左ノ通改正候旨

同師團長ヨリ通知有之候條右相心得ヘシ(改訂)

第十三條中「十一月一日」ヲ「十一月十五日」ニ改ム

第十四條中「十一月一日」ヲ「十一月十五日」ニ「十月十五日」ヲ「十一月十一日」ニ改ム

●三重縣訓令甲第六號 三十三年二月三十一日

郡市役所

郡市長ハ毎年始ニ於テ其學年度左記ノ事項ヲ郡市内小學校別一覽表ニ製シ四月三十日限

リ差出スヘシ(郡市内小學校別一覽表記載事項畧)

○三重縣訓令甲第七號 三十三年二月二日

郡役所

尋常小學校ノ指定位置ヲ變更セントスルトキハ自今同一町村字ノ内ト雖左ノ各項ヲ具

三十四年
訓令甲第
十一號第
以廢止ヲ

シ指定變更ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 指定變更セントスル土地ニ關シ明治三十二年(十月)縣令第六十八號小學校設備規則第一條ニ照ラシ調査シタル要項
- 二 同土地ノ地番、地目、反別
- 三 同土地ノ平面圖^{周圍ノ間}取調書(仮令ハ土地ノ高低、地質、方位、四隣ノ情況、所有地、借用地ノ區別)
- 但本文平面圖ノ内ヘハ新築スヘキ豫定ノ校舍圖ヲ配置スヘシ
- 四 飲料水ノ良否若シ佳良ニアラサレハ善良ナル飲料水ヲ供給スベキ準備ノ方法
- 五 學齡兒童數(男女別)
- 六 就學スベキ學齡兒童數(男女別)
- 七 通學ノ最遠距離
- 八 町村意見ノ要領

○三重縣訓令甲第八號 三十三年二月二日

郡役所 警察署
 全分署 監獄支署
 縣立學校 驅微院
 明野勸農場 縣金庫

客年(二月)訓令甲第三十一號明治三十二年度三重縣歲入歲出科目歲出經常部第十六款縣監獄費第一項俸給及諸給ノ第五目惠與中勉勵賜金ノ次ヘ死亡賜金ノ節ヲ追加ス

○三重縣訓令甲第九號 三十三年二月十日

郡市役所

明治三十二年內務省令第五十四號及全第五十七號輸入禁止令發布前ノ輸入ニ係リ現在ノ場所ヨリ他ニ散セサル様處置シアル物件ニシテ検査ノ上危險ノ虞ナシト認ムルモノハ解放スベシ

○三重縣訓令甲第十號 三十三年二月十三日

郡市役所

明治二十四年(一月)本縣訓令甲第五號三重縣報告例中年報第六目市町村吏員調ヲ削除シ左ノ四目ヲ追加ス

但僱外國人調ハ明治三十二年十二月末日現在ノ事實ヲ本年二月二十八日迄ニ差出スヘシ

- 第八十九 僱外國人調 二月十日
- 第九十 市吏員調 二月二十五日
- 第九十一 町村吏員調 全
- 第九十二 市町村吏員退隱料受領人員及金額調 全

明治三十三年二月 三重縣訓令

報 年 表七百第		備 主		備 主		備 主	
計	(何々)	(何々)	(何々)	(何々)	(何々)	(何々)	(何々)
計	(何々)	(何々)	(何々)	(何々)	(何々)	(何々)	(何々)
.....	(何 國)	(何 國)	(何 國)	(何 國)	(何 國)	(何 國)	(何 國)
.....	(何 々)	(何 々)	(何 々)	(何 々)	(何 々)	(何 々)	(何 々)
.....	(英語教師)	(英語教師)	(英語教師)	(英語教師)	(英語教師)	(英語教師)	(英語教師)
.....	(米合衆國)	(米合衆國)	(米合衆國)	(米合衆國)	(米合衆國)	(米合衆國)	(米合衆國)
.....	(何々製造所)	(何々製造所)	(何々製造所)	(何々製造所)	(何々製造所)	(何々製造所)	(何々製造所)
.....	(器械方)	(器械方)	(器械方)	(器械方)	(器械方)	(器械方)	(器械方)
.....	(何々會社)	(何々會社)	(何々會社)	(何々會社)	(何々會社)	(何々會社)	(何々會社)
.....	(何々)	(何々)	(何々)	(何々)	(何々)	(何々)	(何々)

備考

一本表ハ會社其他ニ於テ外國人ヲ備入居ル者ニ就キ調査スルモノトス故ニ塾舎等ニ英語教師トシテ備入居ル者ハ備主ノ欄ニハ備主ノ氏名勤務役所ノ欄ニハ何市町村某塾舎ト記載スヘシ

一人名ハ假令エー、エム、ドリンナン或ハエヌ、エー、ラーヤン等凡テ明瞭ニ記載スヘシ

一雜給ハ食料、宿料、地代等ノ月給ニ準スルモノ、一ヶ月分金額ヲ掲載スヘシ

一年給ノ者ハ月給ニ改算シ四捨五入シテ圓位ニ止メ記載スヘシ又金銀貨ヲ以テ支給スル者ハ之ヲ區別シテ記載スヘシ

報 年 表八百第		市吏員調		町村吏員調	
職 名	人員	職 名	人員	職 名	人員
常 設 委 員		町村吏員調		町村吏員調	
書 記		明治何年十二月末日現在		明治何年十二月末日現在	
附 屬 員		役所名		役所名	
區 長		支 給 報 酬 合 額		支 給 報 酬 合 額	
區 長 代 理 者		月 給		月 給	
合 計		報 酬		報 酬	
		給 報		給 報	
		合 額		合 額	
		計		計	

一職員中兼務ノモノアルトキハ其兼務ノ方ニ於テ人員并支給金額トモ朱書スヘシ

一支給金額ハ總テ月額ニ換算掲記スヘシ

報 年 表九百		町 村 長		助 役		常 設 委 員		收 入 役		書 記		附 屬 員		區 長 代 理 者		合 計	
		名 譽 職		名 譽 職		員		員		員		員		員		員	
		有給 十圓以上		有給 十圓以上		十圓以上		六圓以上		六圓以上		六圓以上		六圓以上		六圓以上	
		十圓未滿		十圓未滿		十圓未滿		六圓未滿		六圓未滿		六圓未滿		六圓未滿		六圓未滿	

一職員中兼掌若クハ兼務ノモノアルトキハ其兼掌若クハ兼務ノ方ニ於テ人員并支給金額トモ朱書スヘシ
 一町村制第百十六條ニ依リタル町村行政全部ノ組合吏員ハ各其欄内ニ別記シ×ヲ付スヘシ

但一部ノ事務ノ爲メ設ケタル組合ノ吏員ハ掲載スルヲ要セス
 一支給金額ハ總テ月額ニ換算掲記スヘシ

市町村吏員退隱料受領人員及金額調 明治何年十二月末日現在 役所名

報 年 表十百第		職 名		人 員		金 額	
		市 吏 員		町 村 長		町 村 吏 員	
		助 長		助 長		助 長	
		何 々		何 々		何 々	

一人員ハ十二月末日ノ現員ヲ掲ケ金額ハ其現員ニ支給スヘキ年額ヲ掲記スヘシ
 一市制町村制第七十九條ニ依リ官職其他ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルモノト雖モ本表ニハ之ヲ合算スヘシ

○三重縣訓令甲第十一號 三十三年二月十三日

郡市役所 警察署

全分署 町村役場

本日縣令第十四號ニ依ル清潔方法明治二十年內務省令第十三號ニ基キ左記標準ニ據リ施行セシムヘシ

消毒の清潔方法

- 一 室内ハ可成建具ヲ取放シ疊蕈ヲ揚ケ隈ナク掃除シ且疊蕈等ハ日光ニ曝ス
 - 一 床下ノ塵芥ヲ取除キ其跡ニ生石灰末又ハ石灰乳ヲ撒布スル
 - 一 便所ハ糞尿ヲ汲取リ其跡及周圍ニ生石灰末又ハ石灰乳ヲ撒布シ戸柱踏板等ハ石炭酸水ヲ以テ拭淨又ハ洗滌スル
 - 一 下水溝下水溜ハ塵芥淤泥ヲ浚滌シ其跡ヘ生石灰末又ハ石灰乳ヲ撒布スル
 - 一 塵芥溜其他不潔ノ場所ハ掃除ヲナシ其跡ヘ生石灰末又ハ石灰乳ヲ撒布スル
 - 一 井戸便所下水溝下水溜等ノ破損シタルモノ若ハ構造疎悪ナルモノハ改造又ハ修繕ヲナス
 - 一 一家屋内外濕潤ナル個所ハ乾キタル秒ト交換シ汚水ノ溜溜スル個所ニハ適當ノ排水法ヲ設クル
 - 一 清潔方法施行ノ爲メ生シタル塵芥ハ燒却スル
 - 一 淤泥又ハ燒却スヘカラサル塵芥ノ類ハ衛生上障害ナキ場所ニ埋没又ハ投棄スル
- 普通清潔方法

一 消毒の清潔方法ニ準シ消毒藥ヲ使用セサル
○ 三重縣訓令甲第十二號 三十三年二月十三日

郡市役所 警察署 全分署 町村役場

本日縣令第十四號ヲ以テ清潔方法施行ノ義命令候ニ付テハ其執行上荷モ姑息ニ流ルコトナク消毒の清潔方法ノ如キハ實施ノ時ニ際シ市町村吏員ハ勿論郡吏員警察官ノ内必ス臨檢視察シ充分ナル効果ヲ奏センコトヲ期スヘシ

清潔方法施行ノ日割ハ郡市役所警察官署協議ノ上之ヲ定メ豫メ郡市役所ヨリ當廳ヘ報告スヘシ消毒の清潔方法施行ヲ要スル場所ニシテ當該吏員ノ指示ニ依ルヘキモノハ市町村役場ニ於テ豫メ取調ヘ所轄郡役所又ハ警察官署ノ指示ヲ受クヘシ

右縣令執行濟ノ後十五日以内ニ別紙一號表ニ依リ市ハ直ニ當廳ヘ町村ハ郡役所ヘ報告シ郡役所ハ更ニ二號表ヲ製シ當廳ヘ報告スヘシ

(別紙) 第一號表

明治三十三年(何月)清潔方法施行成績表

市町村名

單ニ清潔同上檢査消毒の清潔方法ヲ施ノ結果再潔方法ヲ施タル戸數	同上費消シタル石灰ノ量	清潔方法施行シタル戸數	同上ニ要セシ費用タル路傍便所ノ數	傳染病豫防法ニ依リ市町村ニ於テ支辨シタル數	清潔方法ヲ實シタル日數
--------------------------------	-------------	-------------	------------------	-----------------------	-------------

明治三十三年二月 三重縣訓令

一八五

第三十二條 縣金庫ニ於テ戻入金ノ納付ヲ受ケタルトキハ領收書ヲ交付シ其副書ハ出納吏ヲ經由シ返納告知書ヲ發シタル仕拂命令官ニ送付スヘシ

第三十四條 縣廳各課長ニ於テハ毎年度其所管ノ歲入歲出額ヲ計算シ歲入歲出ノ決算書ヲ調製シ翌年度五月三十日迄ニ内務部第五課ヘ送付スヘシ但其收入支出ヲ他ニ分任シタルモノハ當該出納吏ノ決算書類ヲ添付スヘシ

各所ノ出納吏ハ其決算書ヲ調製シ翌年度五月十日迄ニ縣廳ヘ進達スヘシ

第十八條、第十九條、第二十一條、第五章、第三十七條乃至第四十三條及第四十七條中吏員トアルハ總テ官吏吏員ト改メ第四十二條、第四十六條中仕拂命令官トアルヲ出納吏ト改ム

○三重縣訓令甲第十四號 三十三年二月廿七日

郡役所 警察署

監獄支署 縣立學校

縣ノ出納事務ヲ掌ル出納吏ハ郡役所ニアリテハ郡長警察署ニアリテハ署長監獄支署ニアリテハ支署長縣立學校ニアリテハ校長ヲ以テ之レニ充ツ

○三重縣訓令甲第十五號 三十三年三月二日

郡市役所 警察署

全分署 監獄支署

三十四年
訓令第二
十三號
ヲ以
改正

三重縣會計検査規程左ノ通り相定ム

但明治二十六年(八月)訓令甲第四十七號ハ廢止ス

三重縣會計検査規程

第一條 縣經濟ニ關スル會計ノ検査ハ此規程ニ據ル

縣經濟ヨリ補助ヲ與ヘタル事業若クハ營造物ノ會計ヲ検査スル場合ニ在テモ亦同シ

第一章 書類検査

第二條 歲入歲出及保管金ニ關スル報告書計算書証憑書類内務部長之ヲ検査スヘシ

第三條 検査ノ事項ニ關シ必要アルキハ内務部長ハ當該吏員ニ審理書ヲ發シ答辨又ハ正誤セシムヘシ

第二章 實地検査

第四條 實地検査ハ通常毎年一回トス

但特ニ臨時検査ヲ行フコトアルヘシ

三十四年
訓令甲第
二十四號
ヲ以本條
改正

縣立學校 縣金庫
全出張所 驅微院
土木工區出張所
水産試驗場
明野勸農場

第五條 検査員ハ官吏若クハ吏員ノ中ニ就キ知事之ヲ命ス

第六條 検査員出張スルトキハ検査章ヲ携帯シ當該吏員ノ求メニ應シテ之ヲ示スヘシ

第七條 検査員ノ検査スヘキ事項ノ概目左ノ如シ

一 歳入歳出決算ノ當否

二 財産ノ管理處分及取扱方

三 金錢物品ノ出納及保管ノ實況

四 縣稅及雜收入賦課徵收ノ當否及取扱方

第八條 検査員ハ出納及取扱ニ關スル簿冊ヲ檢閲シ其他必要ト認ムル書類ノ提出ヲ求ムルヲ得

第九條 検査員ハ檢閲シタル帳簿書類又ハ現品其他取扱上ニ關シ口頭又ハ書面ヲ以テ當該吏員ノ辨明ヲ求ムルコトヲ得

第十條 検査員ニ於テ検査上摘發シタル事項ハ左ノ各項ニ據リ取扱フヘシ

一 重大ノ事項ト認ムルモノハ其顛末及意見ヲ速ニ知事ニ具申スヘシ

二 取扱上ノ怠慢疎略又ハ不合規等ニ關シ注意ヲ促スノ必要アルカ若クハ責任者ノ答辨ヲ確ムルノ必要アルモノハ注意書若クハ推問書ヲ發スヘシ

三 微細ノ事項ニシテ直チニ更正シ得ラル、モノハ之ヲ正誤セシムヘシ

第十一條 檢閱濟ノ帳簿ニシテ不都合ナキモノハ明治何年何月何日迄檢了ト記載シ之レ

ニ認印スヘシ

第十二條 検査員検査ヲ了リタルキハ會計検査報告書ヲ調製シ關係書類ヲ添付シ知事ニ復命スヘシ

○三重縣訓令甲第十六號 三十三年三月二日

郡役所 警察署

監獄支署 縣立學校

明治三十二年(三月)本縣訓令甲第二十六號縣費支出證明規程左之通り改正シ明治三十三年度分ヨリ施行ス(左記答)

○三重縣訓令甲第十七號 三十三年三月二日

郡市役所 警察署

監獄支署 縣立學校

土木工區出張所

縣金庫 全出張所

明治二十八年(五月)三重縣訓令甲第三十號縣金庫出納事務規程左ノ通り改正シ明治三十三年度分ヨリ施行ス

三重縣金庫出納事務規程

第一章 出納

三十四年
訓令甲第
二十號ヲ
以改正

- 第一條 縣金庫出張所ハ縣稅及雜入金小學校教員恩給基金保管金等ノ拂込ヲ受ケタルトキハ左ノ如ク取扱フヘシ
- 一 縣稅及雜入金ハ收納報告書ニ現金ヲ添ヘ翌日（休日ニ當ルトキハ順延トス以下亦全シ）迄ニ之ヲ縣金庫ヘ送付スヘシ
 - 二 小學校教員恩給基金ハ收納報告書ニ現金ヲ添ヘ別ニ定ムル期日迄ニ之ヲ縣金庫ヘ送付スヘシ
 - 三 保管金ハ其拂戻ニ充ツルタメ之ヲ保管スヘシ
- 第二條 縣金庫ハ縣金庫出張所ヨリ前條ノ報告書及現金ノ送付ヲ受ケタルトキハ其報告書ニ現金ヲ領收シタル旨ヲ記載シ翌日迄ニ之ヲ縣廳ニ差出スヘシ
- 第三條 縣金庫ハ縣知事ヨリ縣金庫出張所ヘ回金ノ令達ヲ受ケタルトキハ即日其金額ヲ當該出張所ヘ回送スヘシ
- 縣金庫出張所ハ前項ノ回金ヲ仕拂基金ニ充ツヘシ
- 第四條 縣金庫ハ縣知事ヨリ歲入金下戻ノ命令ヲ受ケタルキハ直チニ現金仕拂ノ手續ヲナシ之レカ領收證書ヲ徵スヘシ
- 第五條 縣金庫出張所ニ於テ仕拂命令若クハ引出切符又ハ返納告知書ヲ受ケタルキハ其様式及印鑑等ヲ調査シ左ノ如ク取扱フヘシ
- 一 縣金庫出張所所在地ニ於テ仕拂ヲ要スル仕拂命令若クハ引出切符ナルキハ之ト引替ニ現金ヲ受取人ニ交付スヘシ
 - 二 縣金庫出張所所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル仕拂命令若クハ引出切符ナルキハ即日其金額ヲ受取人ニ送付シ之レカ領收證書ヲ徵スヘシ
 - 三 經濟ヲ異ニスル官廳等ヘ納金ノ爲メ仕拂ヲ要スル仕拂命令ナルキハ即日納付ノ手續ヲナシ其領收證書ヲ徵スヘシ
 - 四 現金仕拂濟ニ係ル仕拂命令及引出切符ニハ其表面ニ年月日現金仕拂濟ノ旨ヲ記入シ之ヲ保存スヘシ

三十四年
訓令甲第
二十五號
改以條中

- 第二章 帳簿
- 第七條 縣金庫ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ現金出納ノ當日之レカ登記ヲナスヘシ
- 某年度受拂簿
- 第八條 縣金庫出張所ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ整理スヘシ
- 某年度收入金内譯簿
- 某年度支出金内譯簿
- 保管金受拂簿
- 恩給基金收入内譯簿

收入金内譯簿保管金受拂簿恩給基金收入内譯簿ハ現金出納ノ當日之カ登記ヲナスヘシ
 支出金内譯簿ハ縣金庫ヨリ回金ヲ受ケタルトキハ案内仕拂命令并ニ送金ニ係ル仕拂命
 令ヲ受ケタル片之レカ登記ヲナスヘシ
 支出金ノ返納ヲ受タル片及案内仕拂命令ヲ返付シタルトキハ支出金内譯簿ニ朱記シ支
 出額ヨリ扣除スヘシ

第三章 收支計算

第九條 縣金庫ハ毎月受拂計算表甲乙二通ヲ調製シ翌月三日迄ニ縣廳ヘ差出シ其乙號ハ
 証明ヲ受ケ之ヲ保存スヘシ

第十條 縣金庫出張所ハ左ノ計算表甲乙二通ヲ調製シ翌月二日迄ニ當該收支命令官ヘ差
 出シ其乙號ハ証明ヲ受ケ之ヲ保存スヘシ

某年度收入金毎月計算表
 某年度每月仕拂計算表

第十一條 縣金庫出張所ハ保管金受拂報告表ヲ調製シ翌月二日迄ニ其寄托ヲ爲シタル麻
 衝ヘ差出スヘシ

出納主任交替シタルトキハ其際直チニ前項ノ手續ヲナスヘシ

○三重縣訓令甲第十八號 三十三年三月二日

郡市役所 警察署

監獄支署 縣立學校
 縣金庫 全出張所

明治二十八年(六月)三重縣訓令甲第三十六號縣金庫出納事務規程ニ據リ用フル報告書計
 算書及帳簿様式中左ノ通り改正追加ス

第 號	科 目	金 員	所 名
縣	稅		某 郡 役 所
雜	入 金		某 警 察 署
全			某 監 獄 支 署
合	計		

右收納金相添報告候也

明治 年 月 日

縣出納吏宛

右金員 月 日領收

縣金庫印

縣金庫某地出張所

明治三十三年三月 三重縣訓令

備考

- 一 收納金ハ各所別ニ列記シ末欄ニ之レカ合計額ヲ掲クベシ
- 一 別經濟ニ屬スル罹災救助基金、勸業資金、病院資金、衛生資金、慈善救濟基金、小學校教員恩給金等ハ各別紙ニ記載報告スヘシ

第 號

明治何年度何年何月中保管金受拂報告表

摘 要	金 額	
	前 月 越 高	本 月 受 入 高
本 月 拂 戻 高		
差 引 殘		

右報告候也

年月日

縣金庫某地出張所印

所長 宛

○三重縣訓令甲第十九號 三十三年三月二日

- 郡役所 警察署
- 全分署 監獄支署
- 縣立學校 驅微院
- 明野勸農場 縣金庫
- 土木工區出張所

明治三十一年(七月)三重縣訓令甲第六十二號三重縣保管金取扱規程中左ノ通り改正シ來ル四月一日ヨリ施行ス

第九條 出納主任保管金ノ拂戻ヲナストキハ第五號書式ノ引出切符ヲ受取人ニ交付シ其領收証書ヲ徴スヘシ

縣金庫出張所所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スルモノハ引出切符ニ其事由ヲ裏書スヘシ此場合ニアリテハ引出通知ヲ發セサルモノトス

引出切符ヲ受取人ニ交付シタル片ハ同時ニ第五號書式別符ノ引出通知ヲ縣金庫ニ送付スヘシ

第十五條 各廳衙ノ出納主任ハ毎月第七號又ハ第八號書式ニ據リ受拂報告書ヲ調製シ受入ニ對シテハ人別任譯書(書式)適宜) 拂渡ニ對シテハ領收証書又ハ振替濟報告并ニ縣金庫ノ

保管金受拂報告表ヲ添付シ翌月三日迄ニ知事ニ報告スヘシ
 第十六條 出納主任交替シタルトキハ三日以内ニ双方運署ヲ以テ前條ノ手續ヲナスヘシ
 第十七條 各麻衝ノ出納主任ハ其所長ヲ以テ之レニ充ツ
 書式中改正

- 一 第一號乃至第六號書式中各番號ヲ付スヘシ
- 二 第六號書式中保管金振替書ニ縣金庫ノ宛名ヲ追加ス

明治何年何月保管金受拂報告表

摘要	前月越高		受		拂		殘	
	數量	額面高	數量	額面高	數量	額面高	數量	額面高
土木工事受負身元保証金	○		一〇〇〇〇		五〇〇〇〇		五〇〇〇〇	
何々								

右報告候也

年月日 何應
 出納主任 官 氏 名 印
 第八號書式 知事 宛

明治何年何月 (交替ノトキハ何月) (自何日トスヘシ) 保管有價証券受拂報告表

摘要	前月越高		受		拂		殘	
	數量	額面高	數量	額面高	數量	額面高	數量	額面高
土木工事受負身元保証	○		二二〇〇		○		印 二二〇〇	
何々								

右報告候也

現金調査ノ印

年月日 何應
 出納主任 官 氏 名 印

備考 前表ノ殘額ハ各麻衝次席者ニ於テ現品ト對照シテ認印スヘシ
 ○三重縣訓令甲第二十號 三十三年三月二日

郡市役所 (津市役所ヲ除ク)
 警察署 縣立學校 (津市所在ノ縣立學校ヲ除ク)
 町村役場

明治二十二年(三月)本縣訓令甲第二十號國稅外諸收入金取扱手續左ノ通改正シ明治三十

三年度分ヨリ施行ス

國稅外諸收入金取扱手續

第一條 國稅外諸收入金ノ内其調定及收入ヲ郡役所警察署ニ委任スル科目左ノ如シ

歳入經常部

款	項	目	取扱所區分
官業及官有財産收入	官有物貸下料	地所貸下料	郡役所
		水面貸下料	郡役所
		地所使用料	郡役所
		水面使用料	郡役所
		懲罰及沒收金	
雜收入			

本年訓令
甲第二十
五號ヲ以
本欄ノ目
ヲ改メテ
削除ス

歳入臨時部		官有物拂下代	
學校職員退隱及遺族扶助料法納金	學校職員退隱及遺族扶助料法納金	地所拂下代	地所拂下代
官吏遺族扶助法納金	官吏遺族扶助法納金		
返納金	沒收金		
罰金及科料			
郡役所	郡役所		
郡役所	郡役所		
郡役所	郡役所		
郡役所	郡役所		
郡役所	郡役所		

物品拂下代	地所拂下代	郡	役所
物品拂下代	郡	警察	署所

第二條 郡長署長ハ諸收入金調定元帳(第一號式)ヲ備ヘ其收入ヲ調定スヘシ

第三條 分任收入官吏ハ收入簿ニ依リ明治二十六年十一月大藏省令第三十二號第四號書式ノ收入報告書ヲ調製シ左ノ書類ヲ添ヘ翌月二日迄ニ郡長署長ニ差出スヘシ

第一 金庫歳入金突合表

第二 金庫領收濟通知書

第三 缺損金明細書(書式適宜)

第四 徵收濟人別仕譯書(第二號式)

第四條 郡長署長ニ於テ前條ノ收入報告書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ調定濟額及現金收入額ノ符合ヲ認メ之レニ檢印ノ上翌月三日限リ其地ヲ差立テ縣廳ヘ送付スヘシ

第五條 調定額及收入額ニ異動ナキ月ハ前條ノ期限内ニ其旨縣廳ヘ報告スヘシ

第六條 分任收入官吏ハ明治廿七年三月會計檢査院達第九號租稅外收入証明規程ニ依リ收入計算書及現金出納計算書ヲ調製シ証憑書類ヲ添ヘ翌年度四月三十日迄ニ郡長署長ニ差出スヘシ

但一會計年度内ニ於テ分任收入官吏ノ交替アリタルトキハ計算書ヘ各其取扱金額ヲ區分シテ記載スヘシ

第七條 郡長署長ニ於テ前條ノ計算書ヲ受ケタルトキハ分任收入官吏ノ收入簿及現金出納簿ト對照シ其符合ヲ認メ之ニ檢印ノ上翌年度五月十日限リ其地ヲ差立テ縣廳ヘ送付スヘシ

第八條 郡長署長ハ諸收入金調定元帳ニ依リ明治二十七年三月會計檢査院達第八號租稅外歳入調定額証明規程ニ依リ調定額計算書ヲ調製シ証憑書類ヲ添ヘ前條ノ計算書ト同時ニ縣廳ヘ送付スヘシ

第九條 郡長署長ハ貸下料人別簿(第三號式)其他收入事務整理上必要ナル帳簿ヲ設備スヘシ

第十條 前各條ニ規定スルモノ、外ハ明治二十六年十一月大藏省訓令第四十二號諸收入收納取扱規程ニ據ルヘシ

第十一條 既納ニ係ル諸收入金ノ下戻ヲ要スルトキハ國庫費証書整理順序ニ依リ本人ヨリ請求書ヲ徵シ調査ノ上之ヲ縣廳ヘ送付スヘシ

(第一號式) (用紙美濃紙)

明治何年度國稅外諸收入金調定元帳
何款項目ノ部

調定官	納額	納入告知書	納期	納濟月日	事由	納入住所氏名
檢印		番號	年月日			

何月何日
拂込

①	割印 五〇〇〇	一三十三 年四月一日	四月十五日	四月十五日	地所貸下料 何年度分	何郡町村大字 某
②	一〇〇〇			四月二十日	全 何年何月分	全

納入告知書ト割印

備考

目毎ニ區別シ見出シヲ付スヘシ
罰金及科料等ニテ納入告知書ヲ發セス直ニ現金ヲ收入シタルモノハ納入告知書及納期ノ欄ヘ斜線ヲ施スヘシ
收入シタル現金ヲ金庫ヘ拂込ミタルトキハ其月日ヲ欄外ニ記入スヘシ
(第二書式) (用紙野半紙)
何年何月徴收濟人別仕譯書(以下倣之)

一金

内譯

地所貸下料

納	額	地目及反別	摘	要納人氏名
一〇〇〇	荒蕪地壹反歩	何年度分	某	

罰金及科料

一金

返納金

納	額	支出科目事	由納人氏名
一三〇〇	徴兵費	何々ノ事由ニ依リ納入 (詳細事由記入ノコト)	某

官吏遺族扶助法納金

納

由納人官職氏名

納	額	月俸額事	由納人官職氏名
〇一四五	一四五一六	何年月日何級俸拜 命ニ付日割	郡書記 某

學校長正教員退隱及
遺族扶助法納金

納

由納人官職氏名

納	額	年俸月割額又ハ月俸額事	由納人官職氏名
〇六六七	六六六六六	何年俸八百圓	何中學校長 某

納	額	地目及反別	納	人	氏	名
一金	三〇〇〇	付寄洲壹反歩	納	人	氏	名
納	額	品目數量	納	人	氏	名
一金	一〇〇〇	砂利壹坪	物品拂下代	某		
	〇五〇〇	官沒物点品				
備考						
右ニ掲ケサル科目ノ收入ハ前記ノ例ニ準シ調製スヘシ						
(第三號式) (用紙美濃紙)						
地所貸下料人別簿						
何年月日貸下許可	何年何月ヨリ	何年何月迄	何ヶ年期			

何那町村大字
字荒蕪地何畝歩

何那町村大字

某

一金何程(一ヶ年料金記入)					
何年度分	金何程(印)	何年何月何日徴收済	何年度分	金何程(印)	何年何月何日徴收済
何年度分	金何程(印)	全	何年度分	金何程(印)	全

備考

目毎ニ區別シ見出シヲ付スヘシ

料金ヲ徴收シタル片ハ金額及年月日ヲ記入シ式ノ如ク取扱主任者檢印スヘシ

●三重縣訓令甲第二十一號 三十三年三月二日

郡市役所 警察署
全分署 町村役場

明治三十二年(十一月)三重縣訓令甲第一百一號ヲ廢止ス
○三重縣訓令甲第二十二號 三十三年三月六日

郡市役所 警察署
監獄支署 縣立學校

明治三十二年(四月)三重縣訓令甲第三十八號雜入金收納規則ニ依リ用ユル帳簿及報告書
 様式中左ノ通改正シ明治三十三年度所屬ノ分ヨリ施行ス

第何號

明治何年度雜入金何年何月分收入報告表 (規則第八條第二項ニ依リ提出スルモノ)

某 所 (署)

科目	區別	前月迄ノ本月調全				備考
		未納額	定額減額	上月收入額	本月欠差額	
請願巡查費納付金					何ノ誰自何年何月何日至何年何月何日分	
懲罰及沒收金					何月何日辭令何之誰罰金何圓何之誰全何圓	
懲罰金					何月何日辭令何之誰罰金何圓何之誰全何圓	
使 用 料					自何年何月至何年何月何月分	
堤塘使用料					自何年何月至何年何月何月分	
並木敷使用料					何年何月分	

滞納額一覽		何々(項)	
科目	何月納期	何月納期	計
物品賣却代			
不用品賣却代			
糞尿賣却代			
辨 償 金			
賠 償 金			
贓 金			
貸座敷贓金			
娼妓贓金			
合 計			

何々(項)																				
合計																				

右報告候也

年月日

某所(署)出納吏(市長)氏

名印

縣知事宛

備考

- 一 報告表提出ノトキハ金庫收入金計算表ヲ添付スヘシ
- 一 前月以前ニ於テ調定シタルモノ、増額及調定外ノ誤納額ハ本月調定額へ併算スヘシ
- 一 新メニ調定シタルモノニ付テハ其算出ノ基礎又前項ニ依リ併算シタルモノ及調定額ノ減額欠損額ニ付テハ其金額事由ヲ備考欄(又ハ別紙)ニ記載スヘシ
- 一 滯納額一覽ノ部へハ未納額中納期ヲ經過シタル金額ヲ各月(納期日ノ異ナルモノ之ヲ)ニ區分シテ之ヲ掲クヘシ

明治何年度雜入金完結報告表

(規則第十條ニヨリ提出スルモノ)

科	目	調定額	收入額	欠損額	備考
---	---	-----	-----	-----	----

雜	收入																				
懲罰及沒收金	懲罰金																				
	郡市收入																				
	郡収入																				
	沒收金																				
使用料																					
	堤塘使用料																				
	並木敷使用料																				
何々	何々																				
	郡市收入																				
	郡収入																				

合 計

右之通ニ候也

年月日

某所(署)出納吏(市長)氏

名印

縣知事宛

備考

一 下戻ニ係ル金額ハ調定額ヨリ控除シ記載スベシ

○三重縣訓令甲第二十三號 三十三年三月六日

郡市役所 警察署

全分署 監獄支署

國庫ニ關スル會計検査手續ハ特ニ規定アルモノ、外明治三十三年(三月)三重縣訓令甲第十五號ヲ準用ス

○三重縣訓令甲第二十四號 三十三年三月九日

明治三十年(三月)本縣訓令甲第十三號第二項及第三項ヲ削除ス

(參照)

縣社以下神社奉仕ニ關スル件

○三重縣訓令甲第二十五號 三十三年三月十六日

郡市役所 (津市役所ヲ除ク)

警察署 縣立學校 (津市所在ノ縣立學校ヲ除ク)

町村役場

本年(三月)本縣訓令甲第廿號國稅外諸收入金取扱手續中左ノ通改正ス(原達訂正左記畧)

○三重縣訓令甲第二十六號 三十三年三月二十日

郡役所 警察署

全分署 監獄支署

縣立學校 驅微院

縣金庫

明治三十三年度三重縣歳入歳出科目別冊之通り相定ム(別冊ハ別ニ頒ツ)

○三重縣訓令甲第二十七號 三十三年三月二十日

郡役所 警察署

全分署 監獄支署

國庫支辨ノ旅費支給上ニ關シテハ在勤廳ヲ距ル壹里未滿ノ市町村ハ明治三十三年四月一日以降在勤廳所在地ノ區域内ト見做ス

○三重縣訓令甲第二十八號 三十三年三月二十日

郡市役所 町村役場

小學校

明治三十三年三月三十一日マテ一時正教員勤務ヲ命シタル小學校准訓導ニ就キテハ左ノ通心得ヘシ

- 一 明治三十三年三月三十一日マテ一時正教員勤務ヲ命シタル小學校准訓導ハ更ニ辭令ヲ用ヒス同年四月一日ヨリ向フ一ケ年間一時正教員勤務ヲ命シタルモノトス
- 二 前項期限中ニ於テ小學校教員免許狀有効滿期ノ者ハ其滿期ト同時ニ退職トス但更ニ免許狀ヲ受領シ其効力ノ中斷セサルトキハ本文ノ限リニアラス

○三重縣訓令甲第二十九號 三十三年三月二十日

檢徵所所在地 警察署 全分署

驅徵院

明治三十三年(十二月)三重縣訓令甲第十七號徵毒検査手續第十四條中入院ヲ命スル病症左ノ通改正ス

- 一 眞性徵毒
 - 硬性下疳 徵毒性淋巴系病 徵毒性皮膚病
 - 徵毒性粘膜炎 徵毒性眼病 徵毒性骨及骨膜病
 - 徵毒性關節病 徵毒性筋及筋膜病 徵毒性内臟及腦脊髓病
- 二 假性徵毒
 - 軟性下疳 便毒

三 淋毒性諸病

- 淋毒性尿道炎 淋毒性陰炎 淋毒性頸管加苔兒
- 淋毒性鼠蹊腺炎 淋毒性眼病 直腸淋
- 其他淋毒性疾患

四 雜症

- 白帶下 腔炎 子宮口糜爛及潰瘍
- 剝脫 ハルトリニ一氏腺炎 痔瘻
- 痔核 肛門裂傷 尖銳扁平腫

五 疥癬

○三重縣訓令甲第三十號 三十三年三月二十日

驅徵院所在地 警察署

驅徵院

明治三十三年(十二月)三重縣訓令甲第一百十八號驅徵院處務細則第八條ニ依ル第一號表中左ノ通改正ス

- 一 第一條表中假性症ノ欄内淋毒性諸病ノ一行ヲ删除シ雜症欄ノ前ニ淋毒性諸病ノ一欄ヲ加フ
- 二 第一號表取調心得第三項中子宮口潰瘍トアルヲ子宮口糜爛及潰瘍ト改メ痔疾ヲ刪

除シ痔瘻、痔核、肛門裂傷、尖銳扁平腫ノ四症ヲ加フ

○三重縣訓令甲第三十一號 三十三年三月二十二日

郡役所 警察署
全分署 監獄支署
縣立學校 驅微院

明治三十三年(三月)訓令甲第二十五號三重縣給與規程中左ノ通り改正來ル四月一日ヨリ施行ス

第九條 郡視學學校ヲ巡視スルトキ及郡書記并ニ郡役所雇員ニシテ測量及土木工事等ノ爲現場へ出張スルモノ、旅費ハ其郡内ニ限リ日額トシ出張日數ニ應シ左ノ金額ヲ支給ス

郡視學一日ニ付 金壹圓

郡書記一日ニ付 金八拾五錢

雇員一日ニ付 金七拾錢

前項ノ出張至急ヲ要シ特ニ乘車馬ヲ命シタルトキ及渡船賃ヲ要スルトキハ其實費ヲ支給ス

第十一條 吏員在勤廳所在地ヲ巡回シ及巡查看守特別ノ用務ノ爲メ在勤地ノ市町村ヲ巡回スルニ當リ特ニ乘車馬ヲ命シタルトキハ其實費ヲ支給ス

第十三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ第十四條ヲ第十五條トシ以下順次條ヲ繰下シ

第十四條 在勤廳ヲ距ル一里未滿ノ市町村ハ在勤廳所在地ト視做ス

在勤廳所在地ノ出張巡回ニ對シテハ此規程ニ於テ特例ヲ設クルモノ、外ハ車馬賃ヲ支給セス又天災地變其他非常ノ事故アルノ外宿泊スルモ其宿泊料及日當ヲ支給セス

○三重縣訓令甲第三十二號 三十三年三月廿三日

警察署 全分署 巡查教習所

巡查配置人員別表ノ通相定メ來四月一日ヨリ實施ス

巡查配置定員表

署名	巡查部長	内	勤外	勤	計
桑名	三		四	二九	三六
長嶋輪内	一			六	七
大泉原	二		二	二三	二七
四日市	三		四	四三	五〇
菰野	一		一	一二	一四
龜山	二		二	二二	二五

野後	宇治山田	天ヶ瀬	相可	宮前	松坂	奥津	久居	津	一身田	神戸	關
一	四	一	二	一	三	一	三	三	一	二	一
	五		二		四		三	四	二	二	
五	五七	五	一七	七	三七	七	三七	五二	一四	一八	七
六	六六	六	二二	八	四四	八	四三	五九	一七	二三	八

吉津	鳥羽	波切	尾鷲	長島	木ノ本	鵜殿	上野	柘植	名張	阿保	巡查教習所
一	二	一	二	一	二	一	三	一	二	一	二
	二		二		二		四		二		一
五	一七	一〇	二二	六	一八	六	三五	八	一七	六	
六	二二	一一	一六	七	二三	七	四二	九	二一	七	三

警察部

一

四

五

計

五五

五二

五三七

六四四

○三重縣訓令甲第二十三號 三十三年三月二十七日

警察署 全分署

監獄支署

國庫ニ屬スル歳入歳出外現金取扱順序左ノ通相定メ明治三十三年度分ヨリ施行ス

歳入歳出外現金取扱順序

- 第一條 明治二十三年(二月)法律第一號ニ據リ政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル歳入歳出外現金ノ取扱ハ此順序ニ據ル但特ニ犯罪ノ証跡ヲ止ムルモノハ此限ニアラス
- 第二條 歳入歳出外現金ヲ取扱フ出納官吏ハ警察署長監獄支署長ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 歳入歳出外現金ヲ警察分署長ニ於テ領收シタルトキハ直ニ之ヲ所屬警察署ノ出納官吏ニ送致スヘシ
- 第四條 在監人所持金ハ預金規則第一條第二號ニ準シテ之ヲ寄托シ其拂戻ヲ要スルトキハ即時拂ノ手續ニ據ルヘシ
- 第五條 在監人所持金及給與工錢ノ内金庫仕拂時間後又ハ休日等ニ際シ臨時支出ニ必要ナル現金ハ豫メ之ヲ引出シ又拾得金留置人拘禁人所持金ノ類ニシテ直ニ交付或ハ仕拂ヲ要スルモノハ之ヲ金庫ニ寄托セス出納官吏ニ於テ隨意保管ヲ爲スコトヲ得

- 第六條 甲地金庫ニ寄托セシ現金ヲ乙地金庫ニ寄托替ヲ要スルハ及金庫ニ寄托前ニ係ル現金ヲ甲廳ヨリ乙廳ヘ移送ヲ要スルハ明治廿七年(一月)大藏省訓令第二號及全年(二月)全省訓令第六號及全年(三月)全省訓令第十五號ニ照シ相當ノ取扱ヲナスヘシ
- 第七條 明治廿六年(九月)大藏省令第二十號保管物取扱規程第三條ニ據リ甲廳ニ於テ現金ヲ金庫ニ寄托セシメタル後之ヲ乙廳ノ取扱ニ變更ヲ要スルトキハ甲廳出納官吏ヨリ其旨當該金庫ニ請求スヘシ
- 全規程第四條及第六條ニ據リ金庫ニ於テ保管シタル現金ノ取扱ヲナス甲廳ノ廢合ニ依リ乙廳ノ取扱ニ屬シタルハ乙廳出納官吏ヨリ其旨當該金庫ニ通知スヘシ
- 第八條 保管物取扱規程第十二條ニ據リ拂渡證書ヲ發スルニ當リ期滿失効ニ係ル年月日ノ變更シタルモノハ其年月日ヲ該證書書式中「領收證書ニ記載アル期滿失効ノ年月日」トアル位置ニ記載スヘシ
- 第九條 保管物取扱規程第十四條ニ據リ歳入ヘ編入スヘキモノ、内保管證書ヲ發セサルモノハ金庫ニ於テ之レカ計算書ヲ調製シ其取扱官廳ヘ送付スルヲ以テ出納官吏ハ之レヲ調査シ相違ナキモノハ其旨ヲ証明シテ金庫ニ返付スヘシ
- 第十條 一時ノ取扱ニ屬スル現金ニシテ金庫ニ寄托セサルモノト雖モ總テ現金出納簿ニ登記スヘシ
- 第十一條 歳入歳出外現金出納證明規程ニ據リ會計検査院ヘ提出スヘキ証憑書類中印紙

代電信料及郵便稅等ノ仕拂ニシテ其領收證書ヲ得難キモノハ仕拂決議書ヲ以テ之レニ代用スヘシ

第十二條 出納官吏ハ歲入歲出外現金整理簿ヲ設備スヘシ

監獄支署ノ出納官吏ニ限リ前項ノ外尙ホ歲入歲出外現金人別簿ヲ設備スヘシ

第十三條 歲入歲出外現金整理簿ハ左ノ日ニ於テ登記スヘシ

一 現金收入又ハ交付ノキハ即日

二 保管物取扱規程第十二條ノ場合ハ拂渡證書ヲ發シタル日

三 全第十四條ノ場合ハ金庫ヨリ歲入へ編入ノ通知ヲ受ケタル日

四 本順序第六條ノ場合ハ爲替納金領收證書ヲ乙出納官吏ニ對シ發シタル日

第十四條 會計規則第九十七條ノ計算書ハ翌年度四月三十日全則第九十九條ノ計算書ハ

在職期限經過後三十日以内ニ人別仕譯書ヲ添へ之ヲ縣廳ニ送付スヘシ

第十五條 歲入歲出外現金整理簿、全人別簿、人別仕譯書及收支決議書等ノ書式ハ別冊

第一號乃至第九號ニ據ルヘシ(別冊ハ別ニ頒ツ)

歲入歲出外現金分類表

科	目	種	別	取扱所區分
遺失	金			

國庫拾得金	警察署	署		
人民拾得金	警察署	署		
遺失物賣却代	國庫拾得物賣却代	警察署		
	人民拾得物賣却代	警察署		
警察署内留置人拘禁人寄托金	留置人所持金	警察署		
在監人寄托金	在監人所持金	監獄支署		
	在監人給與工錢	監獄支署		

○三重縣訓令甲第三十四號 三十三年三月三十日

郡市役所 警察署
警察分署 監獄署

縣立學校 驅徽院

明野勸農場

水産試験場

土木工區出張所

明治三十年(十一月)三重縣訓令甲第九十五號旅費支給上ニ用フル里程別冊ノ通改正シ

三十三年四月一日ヨリ施行ス(別冊ハ別ニ領ツ)

●三重縣訓令甲第三十五號 三十三年四月四日

郡役所 町村役場

明治二十五年(七月)三重縣訓令甲第六十四號高等小學校設置規程廢止ス

○三重縣訓令甲第三十六號 三十三年四月十日

市役所

掃除監視吏員ニハ制服ヲ着用セシムヘシ

但服制ハ本年內務省訓令第三號ニ準據スヘシ

○三重縣訓令甲第三十七號 三十三年四月十日

郡市役所 町村役場

三重縣々稅徵收ニ關スル細則取扱方左ノ通心得ヘシ

一縣稅徵收ニ關スル細則ニ依ル帳簿及報告樣式等ハ總テ廿六年訓令甲第七號ニ依ルヘシ

一徵稅令書ヲ更正スル場合ニ於テ増額ニ係ルモノハ其金額ニ對シ更ニ令書ヲ發シ減額ニ係ルモノハ其金額ノ通知ヲナスヘシ

○三重縣訓令甲第三十八號 三十三年四月十三日

郡市役所 町村役場

縣立學校 小學校

專門學校及各種學校

學校生徒ノ喫煙ニ關シテハ小學校ニ在リテハ明治二十七年文部省訓令第六號ヲ以テ生徒ノ喫煙スルコト及煙器ヲ夾帶スルコトヲ禁スヘキ旨訓令セラレ同年本縣訓令甲第八十五號ヲ以テ文部省訓令ノ趣旨ヲ體シ一層兒童身體ノ發達ニ留意スヘキ旨ヲ訓令シ中學校等ニ在リテモ實際喫煙ヲ禁止セルモノ多シ蓋シ學校生徒ノ喫煙ハ衛生上有害ナルノミナラス風紀ニ關スルコト少ナカラス殊ニ此際未成年者喫煙禁止法ノ發布アリタルニ就テハ小學校中學校師範校及等位ノ之ニ準スヘキ學校ニアリテハ取締上其ノ生徒ノ成年以下ナルト以上ナルト學校ノ内外トヲ問ハス喫煙シ及煙草煙器ヲ夾帶スルコトヲ禁止スヘシ其ノ他ノ學授ニアリテモ特ニ注意ヲ加ヘ法律違反ノ者ナカラシムコトヲ期スヘシ

○三重縣訓令甲第三十九號 三十三年四月十三日

郡市役所

明治三十二年(十一月)本縣訓令甲第二百二號本縣勸業統計報告規程附屬統計樣式第六十號

ノ次へ左ノ一表ヲ追加ス
但第一回ノ調査ハ本年十二月三十一日現在ニ據ルヘシ
(六一)

明治何年公有社寺私有林面積表

(調査毎年十二月三十一日現在
報告期翌年三月限)

何郡市

林別	保安林		普通林		合計
	禁伐林	制限林	普通林	合計	
	箇所面積	箇所面積	箇所面積	箇所面積	
公有林					
社寺林					
私有林					
計					

- 一 保安林トハ森林法ノ規定ニ據リ保安林ニ編入セラレタルモノ普通林トハ保安林外ノ森林ヲ云フ
- 一 森林法第五條ノ規定ニ據レル部分林ノ設定アリシトキハ各林別ニ區分セル別表ヲ添付スヘシ

一 保安林ハ明治三十年十二月農商務省訓令第三十一號保安林取扱心得第一條ニ規定

セル左ノ種類別ニ區分シタル附屬表ヲ添付スヘシ

- 一 土砂扞止林
- 二 飛砂防止林
- 三 水害防備林
- 四 防風林
- 五 潮害防備林
- 六 類雪防止林
- 七 墜石防止林
- 八 水源涵養林
- 九 魚附林
- 十 目標林
- 十一 衛生林
- 十二 風致林

○三重縣訓令甲第四十號 三十三年四月十七日

沿海 警察署 全分署

大阪市ニベスト再發ニ就キ同地方ヲ發シ若クハ同地方ヲ經テ來リタル船舶ニハ警部又ハ

巡查臨檢シ異狀アルトキハ醫師ノ檢診ヲ受ケシムヘシ

○三重縣訓令甲第四十一號 三十三年四月十七日

郡市役所 (津市役所ヲ除ク)
 警察署 縣立學校 (津市所在ノ縣立學校ヲ除ク)
 町村役場

明治三十三年(三月)勅令第百二十七號ヲ以テ會計規則中改正セラレタルニ付國稅外諸收入金取扱手續左ノ通改正シ明治三十三年度分ヨリ施行ス

國稅外諸收入金取扱手續

第一條 國稅外諸收入金ノ内左ノ科目ニ係ル徵收ヲ郡長及警察署長ニ委任ス

歳入經常部

款	項	目	取扱所區分
官業及官有財産收入	官有物貸下料	地所貸下料	郡役所
		水面貸下料	郡役所
		地所使用料	郡役所
		水面使用料	郡役所
雑収入	懲罰及沒收金	罰金及科料	警察署
		沒收金	警察署

本年第六十令
甲第六十令
號以本
項追加

官有物拂下代	地所拂下代	地所拂下代	郡役所
歳入臨時部			
	學校職員退隱及遺族扶助料法納金	學校職員退隱及遺族扶助料法納金	郡役所 <small>(市ニ係ルモノハ最近ノ郡役所)</small>
	官吏遺族扶助料法納金	官吏遺族扶助料法納金	郡役所
	雑収入	返納金	郡役所
	辨償及違約金	辨償金	警察署

物品拂下代	物品拂下代	郡警察署
		役所

三十四年訓令第三號甲第
以本條中ヲ改
正〇

第二條 郡長警察署長ハ第一號書式ニ據リ諸收入金納入告知簿ヲ調製シ徵收ノ事項ヲ整理スヘシ

第三條 郡長警察署長ハ徵收簿ニ據リ明治二十六年十一月大藏省令第三十二號第四號書式ノ徵收報告書ヲ調製シ左ノ書類ヲ添付シ翌月三日迄ニ當廳ヘ送付スヘシ

第一 徵收濟人別任譯書第二號書式

第二 金庫領收濟通知書

第三 欠損金明細書(書式適宜)

第四 收入官吏收入濟額報告書

第五 收入官吏毎月現金拂込任譯書

第六 收入未濟理由書(第六號書式)

第四條 收入額及收入濟額ニ異動ナキ月ハ前條ノ期限内ニ其旨縣廳ヘ報告スヘシ

第五條 收入官吏ハ會計規則第二十五條ニ依リ領收濟ノ報告ヲナストキハ第三號書式ニ據リ郡長警察署長ニ報告スヘシ

第六條 收入官吏ハ第四號書式ニ據リ毎月現金拂込任譯書ヲ調製シ翌月一日限り郡長警察署長ニ報告スヘシ

本年訓令第六號甲第
以下ノ本
條以テ
分次加
下順次
三令甲第
訓令甲第
加本條ヲ
以本條ヲ
十令甲第
以本條ヲ
正〇

第七條 郡長警察署長ニ報告スヘシ

第八條 郡長警察署長ニ於テ前條ノ計算書ヲ受ケタルハ分任收入官吏ノ現金出納簿ト對照シ其ノ符合及殘額現存ノ保證書ヲ添付シ其ノ交替ニ係ルモノハ五日以内ニ其ノ他ノモノハ翌年度五月迄ニ縣廳ニ送付スヘシ

第九條 郡長警察署長ハ明治廿七年(三月)會計検査院達第八號租外歲入調定額證明規程ニ據リ調定額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添付シ翌年度五月十日迄ニ當廳ヘ送付スヘシ

第十條 郡長警察署長ハ第五號書式ニ據リ貸下料人別簿ヲ備ヘ其他徵收事務整理上必要ナル帳簿ヲ設備スヘシ

第十一條 既納ニ係ル諸收入金ノ下戻ヲ要スルキハ國庫費證書整理順序ニ依リ本人ヨリ請求書ヲ徵シ調査ノ上縣廳ニ之ヲ送付スヘシ

第十二條 前各條ニ規定スルモノ、外ハ明治三十三年(四月)大藏省訓令第二十七號諸收入收納取扱規程ニ據ルヘシ

(第一號書式) (用紙美濃紙)

明治何年度國稅外諸收入金納入告知簿
何款項目ノ部

徵收官 檢印	納額 課長主任 印	納入告知書 番號年月日	納期 納濟月日	事由 納人住所氏名
①	①	①	①	①
②	②	②	②	②
③	③	③	③	③
④	④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
⑥	⑥	⑥	⑥	⑥
⑦	⑦	⑦	⑦	⑦
⑧	⑧	⑧	⑧	⑧
⑨	⑨	⑨	⑨	⑨
⑩	⑩	⑩	⑩	⑩

納入告知書ト割印

徵收官認印

備考

目毎ニ區別シ見出シヲ付スヘシ

(第二號書式) (用紙野半紙)

何年何月徵收濟人別仕譯書(以下倣之)

一金

地所貸下料

內譯

納額	地目及反別	摘要	納人氏名
一〇〇〇	荒蕪地壹反步	何年度分	某
一金		罰金及科料	

納額	科料ヲ言渡シ タル年月日	摘要	納人氏名
〇一〇〇	何年何月何日	違警罪科料	某
一金		返納金	
納額	支出科目	事由	納人氏名
一二〇〇	徵兵費	何々ノ事由ニ依リ返納 (詳細事由記入ヲ要ス)	某
一金		官吏遺族扶助法納金	
納額	月俸額	事由	納人官職氏名
〇一四五	一四五一六	何年何月日何級俸拜 命ニ付日割	郡書記 某
一金		學校職員退隱及 遺族扶助料法納金	
納額	年俸月割額又ハ 月俸額	事由	納人官職氏名
〇六六七	六六六六六	何年何月何日何級俸拜	何中學校長 某
〇五〇〇	五〇〇〇〇	何年何月何日何級俸拜	何中學校教諭 某

一金	納額	地目及反別	納人氏名	地所貸下代
	三〇〇〇	村寄洲壹反步	某	
一金	納額	品目數量	納人氏名	物品拂下代
	一〇〇〇	砂利壹坪	某	
	〇五〇〇	官沒物品	全	

備考
右ニ掲ケサル科目ノ收入ハ前記ノ例ニ準シ調製スヘシ
(第三號書式) (用紙野半紙)
何月分第何號收入濟額報告書

何年	年度	罰金及科料	〇一〇〇	納人氏名	某
年	度	科	目	收入濟額	納人氏名

年月日	何郡長(警察署長)氏名宛 (第四號書式) (用紙野半紙) 何年度歳入經常(臨時)部 何年何月分現金拂込仕譯書	收入官吏官氏名 名印
摘要	金額	備考
前月迄拂込未濟	〇	
本月中現金領收高	〇	
計	〇	
本月中現金拂込高	〇	
差引翌月へ越	〇	
年月日	何郡長(警察署長)氏名宛	收入官吏官氏名 名印

(第五號書式) (用紙美濃紙)

地所貸下人別簿

何年月日貸下許可 何年何月ヨリ何年何月迄何ヶ年期

何郡町村大字

字荒蕪地何畝歩

何郡町村大字

某

一金何程(一ヶ年料金記入)

何年度分 金何程 何年何月何日徴收済 何年度分 金何程 何年何月何日徴收済

何年度分 金何程 全 何年度分 金何程 全

備考

目毎ニ區別シ見出シヲ付スヘシ

料金ヲ徴收シタルルキハ金額及年月日ヲ記入シ式ノ如ク取扱主任者認印スヘシ

(第六號書式)

明治何年度何年何月中收入未済理由書

科	目	調定額	納期	納入氏名	理由

三十四年訓令甲第十三號ヲ追加以本式

右報告候也

年月日

官氏名 ㊦

歳入徴收官宛

○三重縣訓令甲第四十二號 三十三年四月二十日

郡役所 警察署

警察分署 監獄支署

縣立學校 驅微院

明野勸農場

明治三十二年(三月)訓令甲第二十五號三重縣給與規程第八條旅費支給區分二等旅費檢疫

委員ノ下ニ汽機檢査官ノ五字ヲ追加ス

○三重縣訓令甲第四十三號 三十三年四月二十日

郡役所 警察署

監獄支署 縣立學校

出納吏及出納事務取扱者ハ對照ノ爲メ其印鑑ヲ縣金庫出張所ニ送付スヘシ

●三重縣訓令甲第四十四號 三十三年四月二十日

郡市役所 町村役場

明治二十三年(六月)三重縣訓令甲第五十二號ヲ廢止ス

(參照)

衆議院議員轉住ニ係ル者取扱方ノ件

○三重縣訓令甲第四十五號 三十三年四月二十日

郡市役所 町村役場

明治二十三年(三月)三重縣訓令甲第二十九號衆議院議員選舉人名簿調製後異動取扱手續中第二條第三條第四條第六條ヲ削除シ第五條ヲ第二條トシ其但書中改姓名ノ下へ(及轉住)ノ三字ヲ加へ更ニ左ノ一條ヲ追加ス

第三條 選舉長前二條ノ報告ヲ受ケタルトキハ事實ヲ精査シ第二條本文ニ係ルモノニ

シテ名簿縦覽期以前ニ在ルトキハ之ヲ訂正シ其他ハ其旨付箋シ置クヘシ

其選舉長ニ於テ發見シタルモノハ前項ノ手續ヲ爲スト共ニ之ヲ當該投票所管理ノ市

町村長ニ通達スヘシ

○三重縣訓令甲第四十六號 三十三年四月廿四日

郡市役所 町村役場

行旅病人行旅死亡人救護及取扱規程左之通り相定メ來ル五月一日ヨリ施行ス

但明治三十二年(六月)訓令甲第六十二號行旅病人行旅死亡人及同伴者救護并ニ取扱費用ニ關スル規程ハ此ノ規程施行ノ日ヨリ廢止ス

行旅病人行旅死亡人救護及取扱規程

第一條 行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護及取扱ハ明治三十二年法律第九十三號行旅病人及行旅死亡人取扱法同年內務省令第二十三號行旅病人行旅死亡人及同伴者ノ救護并取扱ニ關スル規程ノ外ハ此ノ規程ニ依ルヘシ

第二條 行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護又ハ取扱ヲ爲シタル市町村長ハ直ニ其顛末ヲ當廳ヘ報告スヘシ

第三條 本縣ニ引取ルヘキ行旅病人及行旅病人行旅死亡人ノ同伴者ハ住居地ノ市町村長ヲシテ引取ノコトヲ取扱ハシムヘシ

第四條 市町村ニ於テ一時救護ヲ爲シタル行旅病人及行旅病人行旅死亡人ノ同伴者ノ引取ヲ爲スヘキモノナク本縣ニ於テ救護ヲ爲スヘキ場合ニ在テハ其ノ地ノ市町村長ヲシテ救護ノコトヲ取扱ハシムヘシ

第五條 行旅病人及行旅病人行旅死亡人ノ同伴者ノ救護ヲ公私ノ施設又ハ私人ニ委託シタル場合ニ於テ資料及費用ヲ要スルトキハ一日金三十拾錢以內ニ於テ支辨スヘシ

第六條 行旅死亡人ノ遺留ニ係ル有價証券及見積價格十圓未滿ノ物件ハ左ノ場合ニ限り競賣ニ付セサルコトヲ得

- 一 有價証券ハ時價以上ニテ賣却シ得ヘキトキ
- 一 見積價格十圓未滿ノ物件ハ競賣ニ付スルノ効ナシト認ムルトキ

第七條 行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護若ハ取扱ニ係ル費用ハ左ノ限度ニ依ル
ヘシ

救護諸費	
醫師診察料	初診一回ニ付 再診以後毎回
同 手術料	金貳拾錢以內
同 旅費	實費
同 診斷書料	車馬賃 汽車賃 汽船賃
藥價	一通
療養ニ關スル必要品費	一日
產婆雇料	一日
食料	一度
看護人及番人費	一晝夜
被服寢具借入料	一晝夜
入院料	食費藥價 其他一式
借家料	一日
小屋掛料	一式
雜費	薪炭油其他一日

護送諸費	
被救護者汽車賃汽船賃	下等實費
同 車駕賃	實費
同 宿泊料	一夜
同 晝食料	一度
付添人車馬賃	一里
同 日當	一日
同 宿泊料	一夜
同 汽車賃	一哩
同 汽船賃	一海里
取扱諸費	金貳拾五錢以內
屍體檢案及檢案書料	金壹圓以內
假土葬費	假土葬并ニ之ニ關スル諸費墓標費トモ
火葬費	火葬并ニ之ニ關スル諸費墓標費トモ
廣告料	金壹圓五拾錢以內

第八條 前條ノ外特別ニ要スル費用及前條ノ限度以內ニ於テ處辨シ難キ特種ノ事情アル
トキハ市町村長ハ事實ヲ詳具シ知事ノ指揮ヲ受クヘシ其ノ急施ヲ要スル場合ニ在テハ

施行ノ後直ニ其ノ報告ヲ爲スヘシ

第九條 救護ニ供シタル小屋掛及買入品ノ不用ニ歸シタルトキハ之ヲ公賣シ該代金ハ救

護若ハ取扱費ノ繰替金へ戻入スヘシ但シ賣却ニ付テハ第六條ヲ準用スルコトヲ得

第十條 行旅病人行旅死亡人及其同伴者ノ救護又ハ取扱若ハ引取ニ係ル費用ノ辨償ヲ請

求スルトキハ其ノ願末ヲ詳具シ第一號書式ノ計簿書ニ仕拂金領收証及第二號書式ノ遺

留品又ハ不用品賣却調書ヲ添付シテ差出スヘシ

第一號(書式)

行旅死亡人(假土葬)費用計算書

府縣郡市町村大字

何某(本籍氏名不詳男女)假土葬(救護)費

一金

内譯

醫師診察料何度一度金何程

藥價何藥何貼一貼金何程

食料但 自何月何日 何晝夜一晝夜(宿泊何度一度)金何程

看護人(番人)何人但一人金何程

埋葬人何人但一人金何程

棺桶一個代

金 金 金 金 金 金

棒一本代

繩何束一束金何程

何々

何々

填 補 額

一金

内譯

死亡人遺金(病人所持金)

死亡人遺品(病人所持品)賣却代金

不用小屋公賣代金

不足額

差引金

右ノ通相違無之候也

年 月 日

市町村長 氏

名 印

備考

・救護費、假土葬(火葬)費、引取費等總テ各別ニ調製スヘシ

第二號(書式)

行旅死亡人遺留品(不用小屋不用品)賣却代金調書

府縣郡市町村大字

一金

何某(本籍不詳氏名不詳男女)

内

何品何個但一個金何程

何品代

金

右ノ通賣却取計候也

年月日

市町村長 氏

名 印

○三重縣訓令甲第四十七號 三十三年五月八日

郡市役所 町村役場

明治三十二年(九月)訓令甲第八十六號罹災救助ニ關スル規程左ノ通り改正ス

罹災救助ニ關スル規程

第一條 災害ニ際シ罹災救助基金ノ支出ヲ要スト認ムルトキハ郡長又ハ市長ハ其ノ狀況ヲ詳具シ速ニ之ヲ知事ニ報告スヘシ

第二條 罹災救助基金ノ救助ヲ請フモノアルトキハ市町村長ハ第一號乃至第七號書式ニ依リ食料其ノ他ノ仕譯書人員調書及資産調書ヲ作り之ヲ知事ニ差出スヘシ但シ町村長ヨリ差出スヘキモノハ其ノ郡長ヲ經由スルヲ要ス

第三條 罹災ノ狀況ニ依リ避難所小屋掛焚出及治療ノ救助ヲ要スト認ムルトキハ郡長又ハ市長ハ直チニ施行ニ着手シ全時ニ之ヲ知事ニ報告スヘシ

第四條 郡長又ハ市長ニ於テ前條ノ救助ヲ執行シタルトキハ第八號乃至第十號書式ニ依リ仕譯書ヲ作り尙ホ物品購買代金若ハ物件借入損料ノ請求書ヲ徴シ之ヲ知事ニ差出スヘシ

第五條 食料被服小屋掛材料及就業ニ要スル資料器具ノ救助ハ其ノ種類數量日數ヲ指定シ郡長又ハ市町村長ヲシテ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ
前項ニ依リ救助ヲ執行セシメタルトキハ郡長又ハ市町村長ハ物品購買代金ノ請求書ヲ徴シ之ヲ知事ニ差出スヘシ
第一號 (二通ヲ要ス)

食料仕譯書

何市(町村)

(戸主) 何

之 誰

一白米何程
此代金何程

但壹石ニ付金何程(下米相場)

内

白米何程

但人員何人一人米何合何日分

白米何程

何 之 誰
何 之 誰

明治三十三年五月

三重縣訓令

二四五

但、、、、、、、
白米何程
但、、、、、、、

右之通ニ有之候也
年月日

右

市(町)長何之誰印

第二號 (二通ヲ要ス)

被服仕譯書

何市(町)村

(戸主) 何之誰

一被服何人分

此代金何程

但壹人ニ付金何程

外何名分

内

被服何人分

被服何人分

全、、、

右之通ニ有之候也

何之誰
何之誰
、之誰
、之誰

年月日

右

市(町)長何之誰印

第三號 (二通ヲ要ス)

小屋掛材料仕譯書

何市(町)村

(戸主) 何之誰

一小屋掛材料全家族三人以上何戸分
三人未滿何戸分

此代金何程

但家族三人以上ハ一戸金何程全三人未滿ハ一戸金何程

外何人分

内

小屋掛材料全家族三人以上一戸分

全 家族三人未滿一戸分

全 人未滿半戸分

全 右之通ニ有之候也

何之誰
何之誰
何之誰
何之誰

年月日

右

市(町)長何之誰印

第四號 (二通ヲ要ス)

明治三十三年五月

三重縣訓令

器具仕譯書

何市(町村)

何之誰

外何名分

一 鋤何挺 代金何程 壹挺ニ付金何程

一 鎌何挺 全 全

一 何々 全 全

一 何々 全 全

計金何程

内

何業

何之誰

一 鋤何挺

一 鎌何挺

一 何々

何業

何之誰

一 何々

一 何々

一 何々

右之通ニ有之候也

年月日

右

市(町)長 何之誰 印

(農具ノ救助ヲ請フモノハ別ニ耕作地反別取調書ノ添付ヲ要ス)

第五號 (二通ヲ要ス)

資料仕譯書

何市(町村)

何之誰

外何名分

一 種粉何程

此代金何程壹石ニ付何程ノ割

一 何々

此代金、
一何々

計金何程

内

種粉何程

何々

何々

右之通ニ有之候也

年月日

右

市(町)長 何 之

誰 印

(種穀ノ救助ヲ請フモノハ別ニ耕作地反別取調書ノ添付ヲ要ス)

第六號 (一通)

人員取調書(他へ寄留又ハ他出
不在者ハ除クヘシ)

何市(町村)

姓

名

何年何月何日生

何 之

誰

何 之

誰

何 之

誰

父

何年何月何日生

名

母

何年何月何日生

名

妻

何年何月何日生

名

長男

何年何月何日生

名

何

何年何月何日生

々

右

市(町村)長 何 之 誰 印

右之通リ相違無之候也

年月日

第七號 (一通)

資産及納稅調書

何市(町村)

何 之 誰

- 一所有地(地種別)何反步地價金何程
- 一建家(種類別)何棟 建坪何程
- 一所有金貸付金預付金 何程
- 一何々(動産)何個見積價格 何程
- 一何々
- 一直接國稅一ヶ年納額 何程
- 一縣稅全上

右之通ニ有之候也

右

市(町村)長 何 之 誰 印

第八號

焚出諸費仕譯書

一金何程

何市(町村)ニ係ル焚出シ諸費

内

金何程

白米何程代

但何月何日ヨリ何月何日迄何日間現人員何人此延何人一人ニ付一日米何程

内

金何程

白米何程 壹石ニ付

金何程

白米何程 壹石ニ付

金何程

雜 費

但何月何日ヨリ何日迄何日間現人員何人此延何人一人ニ付一日金何程

内

金何程

梅干何程代

但一升ニ付金何程

金何程

味噌何費目代

但一貫目ニ付金何程

金何程

人足賃

但何月何日ヨリ何日迄何日間現人員何人此延何人一人一日金何程

金何程

何々借入代

但云々

金、

何、

但云々

右之通リ相違無之候也

年月日

那(市)長 何 之 某 印

第九號

一金何程

內

小屋掛(或ハ避難所)諸費仕譯書

小屋掛費(或ハ避難所諸費)

金何程

人足何人 一人二付 金何程

金何程

大工何人 一人二付 金何程

金何程

木材何本 一本二付 金何程

金何程

竹 何束 一束二付 金何程

金何程

繩 何束 一束二付 金何程

金何程

(建家借入代)

但何月何日ヨリ何日迄何日間一日ニ付金何程

金何程

右之通り相違無之候也

年月日

郡(市)長 何 之 某 印

第十號

治療費仕譯書

一金何程

內

何市(町) 罹災者治療費

金何程

醫師手當

但何月何日ヨリ何日迄何日間何人分延日數何日一日金何程

金何程

藥 價

但何藥何服分一服ニ付何程患者何人何日分

金、

何、

右之通り相違無之候也

年月日

郡(市)長 何 之 某 印

○三重縣訓令甲第四十八號 三十三年五月九日

郡役所 警察署

警察分署 市役所

町村役場

「ペスト」及赤痢病豫防ニ關シ本日諭告第三號ヲ發布シタルニ付此際特ニ留意シ慎重其ノ職ヲ盡スト共ニ部民ヲシテ普ク該諭旨ノ趣旨ヲ知了セシメ以テ克ク豫防實行ノ周到ヲ期

ス可シ

○三重縣訓令甲第四十九號 三十三年五月廿一日

郡役所 警察署
警察分署 市役所
町村役場

大阪市ニ於ケル「ベスト」ハ逐日蔓延ノ兆アルニ付本月十七日ヨリ縣下樞要ノ地ニ於テ船
舶檢疫ヲ施行シ瀛車旅客ニ對シテハ各驛ニ警察官吏ヲ派遣シテ檢疫的視察ヲ行ハシメ就
中上野柘植兩驛ニハ特ニ檢疫委員タル醫師ヲ配置スルニ至レリ依テ此際一層個人ノ注意
ヲ喚起シ且ツ衛生組合ヲ督勵シ以テ能ク曩キニ諭告シタルノ趣旨ヲ服膺セシメ家屋内外
ノ清潔ヲ持續セシムルハ勿論最モ「ベスト」病毒傳播ノ虞アル家鼠ノ驅除ハ特ニ持久的之
ヲ施行セシムル等其他之カ豫防上毫モ遺算ナキヲ期スヘシ

○三重縣訓令甲第五十號 三十三年五月廿五日

郡市役所

縣稅及使用料手数料夫役現品ニ代フル金錢過料其ノ他縣ノ收入滯納處分囑託及引繼ニ關
スル件左ノ通り相定ム

- 第一條 他府縣ニ於テ滯納處分ヲ爲スコトヲ要スルトキハ郡市長ハ直ニ其ノ處分ヲ爲ス
ヘキ地ノ郡長島司市長若ハ之ニ準スヘキ官吏々員ニ之ヲ囑託スヘシ
- 第二條 前條ニ依リ滯納處分ノ囑託ヲ爲スコトキハ左ノ事項ヲ詳記スルコトヲ要ス

一 滯納種目金額

二 督促手数料

三 滯納地及滯納人ノ現住地

四 處分上參考トナルヘキ事項

第二條 郡市長ハ他府縣ヨリ直接滯納處分ノ囑託アリタルトキハ直ニ其ノ處分ヲ爲スヘ
シ

前項ノ處分ヲ爲スニ當リ財產差押以前ニ於テ處分費及滯納金ノ完納ヲ申出ツルモノア
ルトキハ滯納者又ハ第三者ヨリ直ニ之ヲ其ノ滯納地ノ官廳若ハ公署ニ納付セシムヘシ
財產差押後ニ於テ徵收シタルトキ又ハ處分ノ決行ヲ爲シタルトキハ其ノ金額ノ内ヨリ
送金ニ關スル手数料ヲ扣除シ其ノ領收証及之ニ關スル計算書ヲ添ヘ其ノ囑託アリタル
官廳若ハ公署ニ之ヲ送付スヘシ

第四條 他ノ郡市ニ於テ滯納處分ヲ爲スコトヲ要スルトキハ其ノ郡市長ニ之ヲ引繼クヘ
シ其ノ引繼書ニハ第二條ノ事項及町村長ヲシテ督促ヲ爲サシメタルモノアルトキハ尙
其ノ町村長ノ氏名ヲモ記載スルコトヲ要ス

第五條 郡市長ハ滯納處分ヲ爲シ市長ヨリ引繼ヲ受ケタルモノ又ハ町村長ノ督促ヲ爲シ
タルモノニ係ルトキハ處分結了ノ際督促手数料ハ之ヲ其ノ市長又ハ町村長ニ送付スヘ
シ

第六條 郡市長ハ滯納處分ノ引繼ヲ爲シタルトキハ之ニ對スル課稅減額ノ手續ヲ爲シ其ノ引繼ヲ受ケタルトキハ之ニ對スル課稅額組込ノ手續ヲ爲スヘシ
○三重縣訓令甲第五十一號 三十三年五月廿五日

郡市役所 町村役場

陸軍豫備役後備役補充兵役ニ在ル者ニシテ召集事務ヲ管掌スル官吏及公吏 應府縣官吏島郡市區町村書記戸長ト爲リ戰時餘人ヲ以テ代フ可カラサル者ハ其官名若クハ職名兵役ノ種類武官名 兵卒ハ兵種等級 氏名及本籍住所ヲ取調ヘ毎年十一月五日迄ニ報告シ爾後新任轉免等ノ異動アリタルハ其都度報告ス可シ

明治二十年三重縣訓令乙第四七四號ハ廢止ス

○三重縣訓令甲第五十二號 三十三年五月廿五日

郡市役所 檢疫委員事務所

警察署 同分署

町村役場

「ペスト」豫防上必要ニ付左ノ事項ヲ施行スヘシ

一 樞要ナル市街地ニ於テハ一般ニ鼠族ノ驅除ヲ獎勵スル事

二 停車場附近、貨物陸揚場附近、貨物運送店倉庫、船舶等ニハ特ニ鼠族ノ驅除ヲ嚴行セシムル事

三 斃鼠ヲ發見シタルトキハ細菌檢査ヲ行ヒタル後燒却スル事

四 前項ノ場合ニ於テ「ペスト」菌ヲ發見シタルトキハ必要ト認ムル部分ニ消毒方法ヲ施行シ當分ノ内其附近居住者ノ健康ニ注意スル事

五 「ペスト」患者發生地ト交通頻繁ナル市街地ニ於テハ急性病ノ死亡届ニ注意シ必要ト認ムルトキハ當該吏員ヲシテ臨檢セシムル事

○三重縣訓令甲第五十三號 三十三年五月廿五日

郡市役所 檢疫委員事務所

警察署 同分署

町村役場

鐵道停車場アル

「ペスト」豫防ノ爲鐵道停車場ニ左ノ事項ヲ施行セシムヘキ旨遞信省ヨリ示達アリタル等ニ付傳染病豫防法ニ依リ之ヲ施行セシムヘシ

一 倉庫及貨物庫内ノ鼠ヲ驅除スル事

二 倉庫、貨物、貨車、客車内其他一般ノ塵芥ハ燒却スル事

●三重縣訓令甲第五十四號 三十三年六月一日

郡役所 警察署

警察分署 市役所

町村役場

本年訓令
第七十
甲第七
五號以
廢止

「ペスト」豫防上必要ニ付左記ノ病症ニ罹リ死亡セシ者アルトキハ埋火葬認許証ヲ付與セサル前警察署分署又ハ巡查駐在所ニ通報スヘシ通報ヲ受ケタル警察署分署及巡查駐在所ニ於テハ直ニ現場ニ就キ死因其他精密ノ調査ヲ遂ケ疑ハシキモノアルトキハ其旨檢疫委員長ニ急報スヘシ

- 一 肺炎
- 一 腦膜炎
- 一 肋膜炎
- 一 腦出血(中卒)
- 一 腺病
- 一 急性淋巴炎症
- 一 脚氣衝心
- 一 心臟麻痺
- 一 梅毒
- 一 其他疑ハシキ病名

○三重縣訓令甲第五十五號 三十三年六月八日

郡市役所

明治廿四年(一月)本縣訓令甲第五號三重縣報告例中年報第八十九目備外國人調ヲ削除ス
○三重縣訓令甲第五十六號 三十三年六月八日

郡市役所

小學校校長教員並生徒ノ貯金法ヲ設備セル部内ハ左記様式ニ依リ毎年十二月三十一日ノ現在ヲ取調ヘ翌年一月三十一日限り報告スヘシ
明治二十一年(四月)三重縣訓令第三十六號ハ廢止ス

小學校校長教員貯金表

年十二月三十一日調

郡市

學校名	貯金人員	貯金總額	一人ノ貯金額	最多額	最少額
計					

小學校生徒貯金表

年十二月三十一日調

郡市

學校名	貯金生徒數	貯金總額	一人ノ貯金額	最多額	最少額	貯金種
						自製品販賣自己ノ勤務他人ノ惠與

計

○三重縣訓令甲第五十七號 三十三年六月十九日

郡役所 檢疫委員事務所
警察署 全分署

船舶汽車檢疫施行手續左ノ通り相定ム

船舶汽車檢疫施行手續

- 第一條 船舶入港シタルトキハ檢疫委員其ノ船舶ニ就キ左記各號ノ尋問及検査ヲ爲スヘシ
- 一 船名及船員ノ數
- 二 出港地名及其ノ月日
- 三 檢疫スヘキ目的地ニ寄港セシヤ否
- 四 行先港名
- 五 船中病者若ハ死者ノ有無
- 六 檢疫スヘキ目的地ヨリ乗込タル船客ノ數
- 七 他港ヨリ乗込タル船客ノ數
- 八 病毒ニ汚染シ又ハ其ノ媒介トナルヘキ物件搭載ノ有無
- 九 檢疫スヘキ目的地ヨリ積込タル物件ニシテ陸揚スル種類及個數

十 虎列刺又ハ「ペスト」患者アリタル船舶ト交通セシヤ否

十一 飲料水ヲ汲入レ若ハ食料ヲ積入タル地名

第二條 船客ニ對シテハ客室ニ就キ船員ニ對シテハ其ノ全員ヲ甲板ニ整列セシメテ望診ヲナシ疑ハシキ者アルトキハ觸診檢温ヲ行フヘシ

船客及船員ノ上陸スル者ニ對シテ先ツ其ノ出發及經過ノ地名ヲ取調ヘ若シ檢疫スヘキ目的地ヲ發シ又ハ經過シタル者アルトキハ時宜ニヨリ健康診斷ヲ行フコトヲ得

第三條 船中ニ虎列刺又ハ「ペスト」患者若ハ死者アリタルトキハ當該檢疫委員ヨリ檢疫委員長ニ急報シ且船舶檢疫規則第七條ニ依リ之レカ取扱ヲ爲スヘシ

第四條 虎列刺又ハ「ペスト」患者若ハ死者アリタル船舶ハ檢疫ヲ了リタル後規定ノ日時間港内適當ノ場所ニ停留セシムヘシ

停留ヲ命シタル船舶ニハ所名ノ墨書シタル巾一尺長一尺五寸ノ黃旗ヲ與ヘ之ヲ前櫓又ハ船頭ニ掲ケシメ其ノ出港許可ノ際ハ之ヲ還付セシムヘシ

第五條 船舶檢疫規則第四條第五條及第六條ノ消毒ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ施行スヘシ

- 一 船客及船員ハ消毒ノ上入浴セシメ在船中着用セシ衣類及携帶品ハ蒸氣煮沸又ハ石炭酸水ヲ以テ消毒ヲ行ヒ一時休憩所ニ留置シ本條第二號以下ノ處置ヲ爲スヘシ但シ患者若クハ死者ニ觸接シタルモノハ之ヲ其ノ他ノ者ト區別シテ最後ニ消毒スヘシ

- 二 患者若ハ死者ノ用キタル衣類、臥具、手巾其ノ他病毒ニ汚染シタル物品ハ之ヲ燒却スヘシ
- 三 病毒汚染ノ虞アル物品ハ他ノ物品ト區別シ置キ蒸氣煮沸又ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ
- 四 患者ノ起臥シタル船室ハ石炭酸水ヲ用キ其ノ使用シタル厠房ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ
- 五 前號ノ外船内不潔ノ場所及病毒汚染ノ虞アル部分ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ
- 六 前各號ノ手續ヲ終リタルトキハ成ルヘク船体ノ全部ヲ海水又ハ熱湯ヲ以テ洗滌若ハ拭淨セシメ其ノ乾燥ヲ俟テ船客及船員ヲ歸船セシムヘシ但シ漁舟解舟等船中ニ停留シ難キモノハ便宜隔離所ヲ定メ之ニ移シ一定ノ日時間停留セシムヘシ
- 七 飲料水ハ消毒ノ上投棄シ更ニ淨水ヲ汲入レシムヘシ但シ事情止ムヲ得サルトキハ在來ノ飲料水ヲ煮沸シタル上之ヲ使用セシムルコトヲ得
- 八 船底水ニハ其容量ニ百分ノ一ノ生石灰末ヲ投シ船体ヲ動搖セシメ二十四時間ヲ經過シタル後汲出サレムヘシ
- 第六條 船舶内ノ塵埃ハ船中ニ於テ便宜燒却シ若ハ消毒ノ上港灣外ノ海中ニ投棄セシムヘシ

- 第七條 瀛車着驛シタルトキハ檢疫委員其ノ車室ニ就キ左記各號ノ検査ヲ爲スヘシ
 - 一 病毒ニ汚染シ又ハ其ノ媒介トナルハキ物件搭載ノ有無
 - 二 檢疫スヘキ目的地ヨリ積込ミタル物件ニシテ荷卸スル種類及個數
- 第八條 瀛車乗客ニ對シテハ本則第二條ヲ準用ス
- 第九條 瀛車内ニ於テ虎列刺又ハ「ペスト」患者若ハ死者アリタルトキハ當該檢疫委員ヨリ消毒ヲ施行スヘキ地ノ檢疫委員事務所長ニ急報スヘシ
- 第十條 瀛車中虎列刺又ハ「ペスト」患者若ハ死者アリタルトキハ瀛車檢疫規則第二條及第六條ニ依リ之カ取扱ヲ爲シ且本則第五條ニ準シ消毒方法ヲ施行スヘシ但シ消毒藥ハ石炭酸水ニ限ル
- 第十一條 車内ノ塵埃ハ停車場構内一定ノ場所ニ於テ燒却セシムヘシ
- 第十二條 船舶又ハ瀛車ニ患者若ハ死者ナキ場合ト雖モ第一條第八號第九號及第七條第一號第二號ノ物件アリタルトキハ相當ノ消毒方法ヲ施行スヘシ
- 第十三條 船舶又ハ瀛車乗客ニシテ檢疫スヘキ目的地ヲ發シ若ハ經過シタル者ノ上陸又ハ下車スル者及船舶又ハ瀛車ノ消毒ノ後上陸又ハ下車ヲ許シタル者ニ對シテハ其行先地ヲ取調ヘ住所氏名及其ノ事由ヲ行先地ノ郡市役所及警察署分署ニ通報スヘシ
- 第十四條 船舶又ハ瀛車ノ消毒ヲ施行シタルトキハ其ノ狀況ヲ檢疫委員事務所長ヨリ速ニ檢疫委員長ニ報告スヘシ

第十五條 船舶又ハ汽車ノ檢疫ニ關スル狀況ハ別表ニ依リ五日毎ニ檢疫委員長ニ報告スヘシ

第十六條 船舶又ハ汽車ニ於テ輸入禁停止物件ヲ發見シタルトキハ其種類及個數ヲ取調ヘ最寄ノ檢疫委員事務所長ニ通報スヘシ

檢疫委員事務所長前項ノ通報ヲ受ケタルトキハ其ノ物件ヲ監査シ貴重品ト認ムルモノハ檢疫委員長ノ指揮ヲ受ケタル後其ノ他ノ物件ハ直ニ之ヲ處分シ其ノ種類個數及價格等ヲ報告スヘシ

第十七條 檢疫委員其ノ他消毒ニ從事シタル者ノ着衣及其ノ用ニ供シタル諸器具等ニハ一定ノ消毒ヲ行フヘシ

第十八條 檢疫委員無償ニテ乘船又ハ乘車スルトキハ左ノ証票ヲ携帯スヘシ
 縦二寸五分

第 號 汽車 船舶 檢疫委員ノ証 官氏名	裏 三 重 縣 印
----------------------------------	-----------------------

第十九條 檢疫委員ハ勤務中必ス洋服ヲ着ケ徽章トシテ幅一寸ノ萌黃羅紗ヲ左腕ニ纏フ

第二十條 檢疫委員(警察官ヲ除ク)ハ一面ニ「檢疫委員」他ノ一面ニ「三重縣」ト記シタル騎馬提灯ヲ用ウヘシ

第二十一條 檢疫委員事務所ニハ所名ヲ記シタル縦五尺横一尺一寸ノ表札ヲ掲ケ夜間ハ所名ヲ記シタル標燈ヲ掲クヘシ

第二十二條 檢疫委員事務所ニテ使用スル舢舨ニハ幅二尺長二尺五寸ノ白布ニシテ所名ヲ記シタル標記ヲ掲ケ夜間ニハ所名ヲ記シタル標燈ヲ掲クヘシ

第二十三條 檢疫委員事務所使丁用提灯ハ所名ヲ記シタル棗形弓張提灯ヲ用ウヘシ

某港船舶檢疫報告

自何月何日
至何月何日

月	日	種	名	出	上	陸	人	消	毒	員	氏
檢	疫	船	種	名	出	上	陸	人	消	毒	員
日	船	種	名	出	上	陸	人	消	毒	員	氏
月	種	種	名	出	上	陸	人	消	毒	員	氏
				港	上	陸	人	消	毒	員	氏
				月	上	陸	人	消	毒	員	氏
				日	上	陸	人	消	毒	員	氏
				乘	上	陸	人	消	毒	員	氏
				客	上	陸	人	消	毒	員	氏
				船	上	陸	人	消	毒	員	氏
				員	上	陸	人	消	毒	員	氏
				檢	上	陸	人	消	毒	員	氏
				疫	上	陸	人	消	毒	員	氏
				目	上	陸	人	消	毒	員	氏
				的	上	陸	人	消	毒	員	氏
				地	上	陸	人	消	毒	員	氏
				其	上	陸	人	消	毒	員	氏
				ノ	上	陸	人	消	毒	員	氏
				他	上	陸	人	消	毒	員	氏
				人	上	陸	人	消	毒	員	氏
				消	上	陸	人	消	毒	員	氏
				毒	上	陸	人	消	毒	員	氏
				員	上	陸	人	消	毒	員	氏
				檢	上	陸	人	消	毒	員	氏
				疫	上	陸	人	消	毒	員	氏
				委	上	陸	人	消	毒	員	氏
				員	上	陸	人	消	毒	員	氏
				氏	上	陸	人	消	毒	員	氏
				名	上	陸	人	消	毒	員	氏

右ノ外本期間碇船舶ノ巡視ヲナス何隻
右及報告候也

年月日

検査委員長宛

某驛流車検査報告

検査委員事務所長

誰

印

自何月何日
至何月何日

検査月日列車番號發車地

検査目的地ヲ發シ又ハ經
過シタル下車人員

消毒人員 検査委員氏名

計

右及報告候也

本年訓令
甲第七十
三號ヲ以
第三欄中
更正第五
欄ヲ删除
ス

年月日

検査委員長宛

検査委員事務所長

誰

印

○三重縣訓令甲第五十八號 三十三年六月廿二日

郡市役所

府縣制第八八條ニ依ル營業稅附加稅賦課歩合査定上必要ニ付左ノ事項取調毎年四月三十
日迄ニ之ヲ當廳ニ報告スヘシ

但本年ニ在テハ來ル七月十日迄ニ之ヲ差出スヘシ

一本縣内ニ營業本店ヲ置キ他府縣ニ支店若クハ出張店等ヲ設ケテ國稅ノ營業稅ヲ分別シ
テ納メサルモノニ付テハ左ノ事項

營業人ノ住所氏名

營業ノ種類

其年度營業稅額

支店若クハ出張所ノ所在地並ニ箇數

本店及支店若クハ出張店ノ賣上金額建物賃借價格從業者ノ數及資本金額(以上ハ本
店支店若クハ出張店別トシ營業稅法ニ依ル届出ノ査定額トス)

一他府縣ニ營業本店ヲ置キ本縣内ニ支店若クハ出張店ヲ設ケテ國稅ノ營業稅ヲ分別シテ

明治三十三年六月

三重縣訓令

二六九

納メサルモノニ付テハ左ノ事項

營業人ノ住所氏名
營業ノ種類

營業本店ト營業人ノ住所ト異ルトキハ其本店ノ所在地
支店若クハ出張店ノ所在地並ニ箇數

○三重縣訓令甲第五十九號 三十三年六月廿二日

- 郡役所 警察署
- 警察分署 監獄支署
- 縣立學校 驅微院
- 水産試驗場
- 明野勸農場 測候所
- 農事試驗場
- 土木工區出張所

三重縣文具規程左ノ通り相定ム

三重縣文具規程

第一條 文具ヲ分チテ普通文具及特別文具トス其種別左ノ如シ
普通文具

筆	鉛筆	ペン	ペン軸	墨	朱墨	インキ
卷紙	押紙	檢印用印肉	硯	硯箱	小刀	錐
鋏	水入	文鎮	インキ壺	定木	檢印用肉池	
尺度	鳥口	コンパス	繪ノ具	紙挾	糊壺	火熨斗
字消護謨	箭記用海綿	特別文具				

製圖用具 蒔翳版用具
試驗又ハ教授用具
辭令書用筆墨

應接所 扣所 門衛 警備席 會議所 派出所 喚問所ノ筆墨硯及硯箱
第二條 普通文具ハ使用者ノ自辨トシ特別文具ハ之ヲ各所ニ設備シテ共用セシムルモノトス

第三條 特別文具ハ第一條ニ指定シタル品目ノ外特別文具トナスヘキ必要アルモノハ其用途及理由ヲ具シ知事ノ指揮ヲ請フヘシ
○三重縣訓令甲第六十號 三十三年六月廿九日

- 郡市役所 (津市役所ヲ除ク)
- 警察署 縣立學校 (津市所在ノ縣立學校ヲ除ク)

町村役場
明治三十三年(四月)三重縣訓令甲第四十一號國稅外諸收入金取扱手續中左ノ通改正ス
(原達更正左記畧)

○三重縣訓令甲第六十一號 三十三年六月廿九日

警察署 全分署

行政執行法第三條ニ依リ密賣淫ノ罪ヲ犯シタル者ニ對シ其ノ健康ヲ診斷シ必要ト認メ病院ニ入ルコトヲ命シタル場合ニ於テ警察費ヲ以テ其ノ費用ヲ支辨スルモノハ左ノ區域ニ從ヒ其ノ驅黜院ニ入ラシムヘシ

四日市驅黜院

桑名郡 員辨郡 三重郡 四日市市 鈴鹿郡 河津市 津市 安志郡 飯沼郡

津驅黜院

飯沼郡 安志郡 津市 河津市 鈴鹿郡 志摩郡 北牟婁郡 南牟婁郡 名賀郡 阿山郡

宇治山田驅黜院

多氣郡 度會郡 志摩郡

尾鷲驅黜院

北牟婁郡 南牟婁郡

上野驅黜院

名賀郡 阿山郡

○三重縣訓令甲第六十二號 三十三年六月廿九日

驅黜院所在地

警察署

驅黜院

明治二十三年(十二月)三重縣訓令甲第百十八號驅黜院處務細則中左ノ通り追加ス

一第一條中娼妓ノ下ニ「密賣淫者」ノ四字

一第八條中毎年末ノ下ニ「娼妓密賣淫者各別ニ」ノ九字

一別紙第一號表及第二號表第一行何何驅黜院ノ下ニ「娼妓又ハ密賣淫者」ノ八字及括弧

○三重縣訓令甲第六十三號 三十三年七月三日

郡役所 警察署

警察分署 監獄支署

縣立學校 驅徽院
津測候所 農事試驗場
水産試驗場
農事講習所
明野勸農場

明治三十二年(三月)三重縣訓令甲第二十五號三重縣給與規程中左ノ通り改正シ本年七月ヨリ施行ス

第六條中「二十五日」ヲ「二十一日」ニ「繰上」ヲ「繰下」トス

●三重縣訓令甲第六十四號 三十三年七月三日

郡市役所 町村役場
公私立學校

明治三十二年(七月)三重縣訓令甲第七十六號學校生徒「トラホーム」豫防方法廢止ス
●三重縣訓令甲第六十五號 三十三年七月三日

縣立學校

明治三十二年(七月)三重縣訓令甲第七十七號學校生徒「トラホーム」豫防方法廢止ス
○三重縣訓令甲第六十六號 三十三年七月三日

郡市役所 町村役場

學校 幼稚園

學校傳染病豫防及消毒方法ハ明治三十一年(九月)文部省令第二十號ニ依リ嚴重施行スヘキハ勿論ナリト雖尙左記心得ニ依リ學校職員ハ勿論學校ニ關係アル職務ヲ有スル者ハ平素注意シテ躬行實踐生徒ノ模範トナリ以テ豫防ノ實効ヲ舉ケンコトヲ勉ムヘシ

學校生徒傳染病豫防心得

- 一 爪ハ短ク切り不潔物ノ附着セサル様注意シ且手ハ時々洗滌シテ常ニ清潔ナラシムヘシ但シ手洗場ニハ龍吐器ヲ用キルモノ、外ハ柄杓ヲ備ヘ必之ヲ用キシムヘシ
- 二 各生徒ニハ成ヘク自用ノ手拭ヲ携帶セシムヘシ
- 三 入浴スルトキハ浴後浴槽外ノ清潔ナル湯又ハ水ヲ以テ十分ニ身体ノ各部ヲ洗ヒ若ハ拭ハシムヘシ
- 四 生徒ノ衣服携帶品ハ汚垢ヲ清淨シタルモノヲ用キシムルコトニ注意スヘシ
- 五 理髮店營業浴場等ニ入りテハ他人ノ用キタル手拭ヲ使用セシムヘカラス
- 六 生徒學校外ノ集合遊戯ハ殊ニ病毒傳染ノ虞アルヲ以テ父兄ヲシテ一層注意セシムヘシ
- 七 傳染病流行ノ時ニ際シテハ多人數集合スル場所ニ出入スルコトヲ避ケシムヘシ
- 八 寄宿舎ノ設ケアル場合ハ寢具手拭ノ混用ヲ禁シ共用ノ盥器ハ十分洗滌シテ使用セシメ
- 九 生徒中傳染病患者ヲ發生シタルトキハ保護者又ハ保証人ヲ召喚シ其ノ病性ヲ示諭シタ

ル後出席ヲ停止スヘシ
十前項ノ場合ニ於テハ保護者又ハ保証人ヲシテ速ニ醫治ヲ受ケシメ他人トノ交通ヲ避ケ
務テ其ノ傳染ヲ豫防セシムヘシ

十一學校醫ヲ置ケル學校ニ於テ職員生徒ニ昇校ヲ停止シ及其ノ停止ヲ解カントスル場合

ニ在リテハ他ノ醫師ノ診斷或ハ証明シタル者ト雖尙學校醫ノ意見ヲ徵スヘシ

十二前諸項ノ外傳染病流行ニ際シテハ其ノ種類ニ應シテ特殊ノ豫防方法ヲ實施センコトニ

留意スヘシ

○三重縣訓令甲第六十七號 三十三年七月六日

郡役所 警察署

警察分署 監獄支署

縣立學校 驅微院

明野勸農場

明治三十二年(三月)訓令甲第二十五號三重縣給與規程第八條旅費支給區分二等旅費囑
託教員ノ下ニ衛生技術員ノ五字ヲ追加ス

●三重縣訓令甲第六十八號 三十三年七月十日

郡役所

明治三十一年(十月)本縣訓令甲第八十九號ハ本年七月三十一日限り廢止ス

(參照)

文部省所管歳出小學校教員年功加俸ヲ取扱フ爲メ郡役所ニ現金前渡官吏ヲ置
クノ件

○三重縣訓令甲第六十九號 三十三年七月十日

郡役所 警察署

明治三十二年(三月)本縣訓令甲第十八號左ノ通改正シ本年八月一日ヨリ施行ス
國稅外諸收入ヲ取扱フ分任收入官吏ハ警察署ニ在リテハ署長ヲ以テ之ニ充ツ

○三重縣訓令甲第七十號 三十三年七月廿四日

郡市役所 町村役場

明治三十一年(三月)訓令甲第十五號市町村衛生補助費申請手續中左ノ通改正ス
第四條ニ左ノ一項ヲ追加ス

縣廳ハ其補助ニ係ル事業ニ對シ必要ト認ムルトキハ補助費支拂前ニ於テ實地調査スル
コトアルヘシ

第五條ヲ左ノ通改ム

第五條 補助費ノ申請書ハ左ノ様式ニ依リ調製シ支出金額ニ對スル證憑書類ヲ添付スヘ
シ

但證憑書類ハ調査ノ上之ヲ返付ス

○三重縣訓令甲第七十一號 三十三年七月廿七日

警察署 同分署

陸軍充員召集事務取扱規程左ノ通相定ム

警察署同分署陸軍充員召集事務取扱規程

- 第一條 本規定中條例トアルハ陸軍召集條例ヲ細則トアルハ同施行細則ヲ謂フ
- 第二條 充員召集ニ關スル書類ハ總テ鎖鑰アル別函ニ格納シ置クヘシ
- 第三條 前條書類中其ノ準備ニ關スルモノニハ總テ豫定セル事項ヲ記入シ置クヘシ
- 第四條 動員令ノ通達ヲ受ケタルトキハ即時署員ヲ召喚スルノ準備ヲ爲シ置クヘシ
- 第五條 動員發令ノ際使用スヘキ使丁ハ豫メ契約ヲ爲シ第一様式ノ請書ヲ徴シ置クヘシ
- 第六條 特約使丁召喚ノ用ニ供スル爲第二様式ノ召喚票ヲ調製シ置クヘシ
- 第七條 特約使丁ノ用ニ供スル爲其ノ員數ニ應ジ左ノ器具ヲ調製シ置クヘシ
 - 一 通達書入
 - 二 提灯
- 第五條ノ使丁ヲ使用スル爲第三様式ノ使丁使用區分表ヲ調製シ置クヘシ
- 第八條 細則第三様式ノ封筒ハ警察署ニ在リテハ五十枚以上同分署ニ在リテハ三十枚以上ヲ準備シ置クヘシ
- 第九條 動員令通達用紙ハ第四様式ニ依リ巡查駐在所數ノ三倍以上ヲ備ヘ置クヘシ
- 第十條 動員令ノ通達ヲ受ケタルトキ其ノ返電ヲ爲ス爲常ニ郵便紙ヲ備ヘ置クヘシ

第十一條 條例第二十八條第三項同第三十條第二項及ヒ同第三十一條第二項ニ依リ附與スヘキ證明書ハ豫メ其ノ準備ヲ爲シ置クヘシ

第十二條 警察署長同分署長及巡查ノ動員手簿ハ第五様式ニ依リ調製シ置クヘシ

前項動員手簿ハ第六様式ニ準シ各其ノ擔任スヘキ事務ノ要領ヲ記載シ置クヘシ

第一様式

御請書

使丁何人ハ拙者ニ於テ引受御呼出有之候節ハ何時タリトモ御用爲相勤可申萬一拙者不在ノ節ハ何町(村)何番地何某ヲ以テ拙者代人ト相定メ右使丁差出方等決シテ御差支無之様可致候依テ此段御請申上候也

但本文使丁ハ身体健全ニシテ一時間一里半ノ速度ヲ進行シ得ル者ヲ選定可致候也

何郡(市)町(村)何番地

年月日

何 某印

全

代人 何 某印

何警察署(何警察署何分署)御中

第二様式

一使丁 名即時差出スヘシ

何警察署(何警察署何分署)印

用紙紅色厚紙

第三様式

使丁使用區分表

何警察署(何警察署何分署)

駐在所名	駐在所ニ至ル距離	使丁人員
何村巡查駐在所	六 ^里 二 ^丁 一	一人
全	五〇八全	
全	四一六全	
全	三二五全	

考備	全	全	全
一本表ハ最遠ノ里程ヨリ順序ニ記スルモノトス	〇二八全	一三七全	二一九全

第四様式

動第 號

第 師團第 動員ヲ令セラル動員第一日ハ 月 日ナリ

明治三十年 年 月 日

何駐在所巡查殿

何警察署(何警察署何分署)長印

動第 號

(空罫凡三行)

明治三十年 年 月 日

何駐在所巡查殿

何警察署(何警察署何分署)長印

第五樣式

四寸

三寸

秘

明治 年度
何警察署(何警察署何分署)長(巡查)動員手簿

保
管
者
官
職
氏
名

綴込ノ餘地

動員第

一何、、、、、、、

(日 月)日

二何、、、、、、、

三何、、、、、、、

第六樣式

警察署長全分署長動員手簿記載例

- 一 地方長官ヨリ動員令ノ通達ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ全文ヲ掲ケ至急官報ヲ以テ返信ヲ爲シ且其ノ時刻ヲ控ヘ置クコト但使丁ヲ以テ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ封筒表面相當欄内ニ所要ノ記入ヲ爲シ職印ヲ捺シ使丁ニ返付シ且其ノ時刻ヲ控ヘ置ク
- 二 巡查部長何某巡查何某ヲシテ左ノ事務ヲ執行セシム
 - 一 契約使丁ヲ召喚スルコト
 - 二 動員令通達用紙ニ所要ノ記入ヲ了シ發送ノ準備ヲ爲スコト
 - 三 使丁使用區分表ニ基ツキ豫定ノ順序ニ發送スルコト
 - 四 犯罪、所在不明等ノ爲應召スルコト能ハサル者ノ届出アリタルトキハ證明書ヲ附與スルコト
 - 五 應召員途中ニ於テ傷痍疾病其ノ他非常事變等ノ爲到着遅延ニ係ル證明書ノ請求ア

ルトキハ之ヲ附與スルコト

- 三 巡查何某ヲ軍用旅舎ニ派遣シ看板及標旗標燈ヲ掲クルノ告知ヲ爲サシムルコト
- 四 巡查何某ヲ何停車場ニ派遣シ應召員ニ便利ヲ與ヘシムルコト
- 五 巡查何某ヲ何渡船場ニ派遣シ應召員ニ便利ヲ與ヘシムルコト
- 六 巡查何某全何某ヲ應召員ノ居宅ニ派遣シ所命ノ期日ニ到着セシムルノ措置ヲ爲サシムルコト

○三重縣訓令甲第七十二號 三十三年七月三十一日

郡市役所 町村役場

明治三十一年(九月)本縣訓令甲第八十號郡市町村事務報告例中左ノ通改正ス

第一條第十號ヲ左ノ通改ム

- 十 市町村ニ於テ公債ヲ起シ若クハ借入金ヲ爲シタルトキハ起債ノ事由金額年月日利率募集及償還ノ方法又償還ヲ爲シタルトキハ其ノ元利金額及年月日但シ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ起債ノ事由募集及償還ノ方法ヲ省畧スルコトヲ得
- 第三條第四號ノ次へ左ノ一號ヲ加ヘ以下順次繰下ク
- 五 水利組合ニ於テ公債ヲ起シ若クハ借入金ヲ爲シタルトキハ起債ノ事由金額年月日利率募集及償還ノ方法又償還ヲ爲シタルトキハ其ノ元利金額及年月日但シ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ起債ノ事由募集及償還ノ方法ヲ省畧スルコトヲ得

第四條第八號ヲ左ノ通改ム

- 八 町村又ハ水利組合ニ於テ分債ヲ起シタルトキハ起債ノ事由金額年月日利率募集及償還ノ方法又償還ヲ爲シタルトキハ其ノ元利金額及年月日但シ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ起債ノ事由募集及償還ノ方法ヲ省畧スルコトヲ得
- 三重縣訓令甲第七十三號 三十三年八月三日

郡役所 檢疫委員事務所
警察署 同分署

明治三十三年(六月)三重縣訓令甲第五十七號船舶檢疫施行手續中左ノ通改正ス(原達訂正左記畧)

○三重縣訓令甲第七十四號 三十三年八月十四日

警察署 同分署

氷雪營業取締ニ關スル施行手續左ノ通定ム

氷雪營業取締ニ關スル施行手續

- 第一條 細則第四條ノ工事検査ヲ爲シタルトキハ其ノ狀況ヲ警部長ニ報告スヘシ
- 第二條 細則第八條ノ行商鑑札ハ左ノ雛形ニ依ルヘシ
二寸五分(用材又厚適宜)

第何號

郡市町村大字番屋敷

表六

水(雪)行商鑑札	裏 水(雪)採收業(製造業) (卸賣業)(請賣業)何ノ誰雇 又ハ家族
明治何年何月何日	署名 何ノ誰
烙印	年 齡

第三條 營業臺帳ハ左ノ各號ニ依リ登録スヘシ

- 一 採收場、製造場、貯藏場、採收者、製造者、卸賣者、請賣者、行商者ノ各部門ニ分ツ者トス
但シ營業者少數ナルトキハ便宜數部門ヲ合併スルモ妨ナシ
- 二 採收場、製造場、貯藏場ノ部ニハ位置、構造ノ概畧及持主ノ住所氏名認可年月日等ヲ登録スルモノトス
- 三 採收者、製造者ノ部ニハ住所氏名及認可年月日等ヲ登録スルモノトス
- 四 卸賣者、請賣者ノ部ニハ認可年月日又ハ届出年月日及卸賣者若ハ請賣者ニ關係アル採收者、製造者ノ住所氏名等ヲ登録スルモノトス
- 五 行商者ノ部ニハ其ノ鑑札面ニ掲記スヘキ事項ヲ登録スルモノトス
鑑札番號ハ數年通シテ之ヲ用キ欠番號ヲ生シタルトキハ新規鑑札ヲ下付スル毎ニ補填スルモノトス

第四條 時々採收場、製造場、貯藏場、販賣所ニ就キ法令ヲ遵守スルヤ否ヲ視察スヘシ

- 第五條 臨時検査ニ於テ販賣授與ヲ禁止シ氷雪ノ廢棄ヲ命シタルトキハ警部長ニ即報スヘシ違反事件ニシテ罰金ニ係ルモノヲ告發シタルル亦同シ
- 第六條 營業ノ禁止又ハ停止ヲ必要ト認ムルトキハ知事ニ具狀スヘシ

郡役所 警察署
警察分署 市役所
町村役場

明治三十三年(六月)三重縣訓令甲第五十四號ハ明治三十三年八月二十二日限廢止ス

參照 「ベスト」豫防上肺炎其他ノ病症ニ罹リ死亡セシ者アルトキハ埋火葬認許証付

與前警察署同分署等へ通報方ノ件

○三重縣訓令甲第七十六號 三十三年八月廿四日

警察署 同分署

清涼飲料水營業取締ニ關スル施行手續左ノ通定ム

清涼飲料水營業取締ニ關スル施行手續

- 第一條 細則第四條ノ工事検査ヲ爲シタルトキハ其ノ狀況ヲ警部長ニ報告スヘシ
- 第二條 營業臺帳ハ製造者、請賣者ノ二部門ニ分チ左記ニ依リ登録シ異動アル毎ニ加除訂正スヘシ

一 製造者ノ部ニハ住所氏名、認可年月日、用水汲取場、製造場ノ位置、構造ノ概畧
及製造方法等ヲ登録スルモノトス

二 請賣者ノ部ニハ住所氏名、届出年月日及請賣者ニ關係アル製造者ノ住所氏名等ヲ
登録スルモノトス

第三條 時々製造場、販賣所ニ就キ法令ヲ遵守スルヤ否ヲ視察スヘシ

第四條 臨時検査ニ於テ物品ノ販賣、授與若ハ使用ヲ禁止シ又ハ廢棄處分ヲ爲シタルト
キハ警部長ニ即報スヘシ違反事件ニシテ禁錮又ハ罰金ノ刑ニ當ルモノヲ告發シタルト
キ亦同シ

第五條 營業ノ禁止又ハ停止ヲ必要ト認ムルトキハ知事ニ具狀スヘシ

○三重縣訓令甲第七十七號 三十三年八月廿四日

那市役所

歸化人及本邦人ノ養子又ハ入夫トナリタル元外國人ノ名稱更改又ハ假名字ノ稱呼ヲ漢字
ニ變更スルヲ許可シタルトキハ其ノ新舊名稱及改稱ヲ要スル事由并改稱許可ノ年月日ヲ
記シ其ノ都度報告スヘシ但シ從來既ニ許可シタルモノハ此際報告スヘキモノトス

○三重縣訓令甲第七十八號 三十三年八月廿八日

郡役所 警察署
警察分署 縣立學校

縣 縣 縣
農事試驗場
水産試驗場
農事講習所
明野勸農場

縣ノ所有又ハ保管ニ屬スル有價證券及物品取扱ニ關スル規程左ノ通相定ム

縣ノ所有又ハ保管ニ屬スル有價證券及物品取扱ニ關スル規程

第一條 物品及證券ハ出納吏總テ之ヲ管掌スヘシ但シ各自使用ノ物品ハ各自之ヲ管掌シ
各所共用ノ物品ハ物品取扱主任之ヲ管掌スヘシ

第二條 出納吏其ノ管掌スル所ノ物品又ハ證券ヲ亡失シ若ハ之ヲ毀損シタルトキハ直ニ
其ノ顛末ヲ知事ニ申出ツヘシ

第三條 物品及證券ノ出納ハ總テ年度ヲ以テ之ヲ區分スヘシ其ノ年度ハ會計年度ニ依ル

第四條 物品及證券ノ出納ハ出納命令官ノ命令ニ依リ出納吏之ヲ執行スヘシ

第五條 出納吏ハ左ノ帳簿ヲ設クヘシ

- 一 備品出納簿
- 二 消耗品出納簿
- 三 有價證券出納簿

前項ノ外必要ノ場合ニ在テハ適宜補助簿ヲ設クルコトヲ得

第六條 出納吏ハ毎年度物品及證券ノ出納計算書ヲ調製シ左ノ書類ヲ添ヘ翌年度五月三十一日マテニ之ヲ知事ニ差出スヘシ

一 受入ニ對シテハ本人ノ納付書但シ納付書ヲ徴セサルモノハ其ノ命令書

二 拂出ニ對シテハ其ノ領收書但シ棄却拂ニ對シテハ其ノ決定書

第七條 前條ノ計算書ハ特ニ検査員ヲ命シテ帳簿及現品ト對照セシムルコトアルヘシ

第八條 出納吏交替シタルトキハ三十日以内ニ前二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 出納命令官ハ本廳ニ在テハ各部長署長其ノ他ノ廳衙ニ在テハ各其ノ所長ヲ以テ之ニ充ツ

第十條 出納吏ハ内務部ニ在テハ各課長警察部ニ在テハ警務課長郡役所ニ在テハ會計事務ヲ掌管スル課長他ノ廳衙ニ在テハ各其ノ所長ヲ以テ之ニ充ツ

但シ警察分署ニ在テハ警察署長トス

第十一條 物品取扱主任ハ出納命令官ノ命スル所ニ依リ本廳各課及各廳衙ニ各一人若ハ數人ヲ置ク

第十二條 入札保證金ニ代用スル證券ノ出納ニ關シテハ別ニ其ノ規程ヲ設クルコトヲ得

附 則

本規程ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

明治三十一年(十二月)訓令甲第一一二號縣有物品取扱規程第六條ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス

○三重縣訓令甲第七十九號 三十三年八月三十一日

- 郡役所 警察署
- 全分署 監獄支署
- 縣立學校 驅微院
- 縣金庫

明治三十三年(三月)訓令甲第二十六號明治三十三年度三重縣歲入歲出科目中左ノ通追加ス

一 歲入經常部第九款雜收入第八項辨償金ノ中ニ「第六目行政執行費辨償金」ヲ加フ

一 歲出經常部第一款警察費第二項廳費第七目雜費中ニ「行政執行費」ノ節ヲ加フ

○三重縣訓令甲第八十號 三十三年八月三十一日

- 郡役所 警察署
- 全分署 縣立學校
- 驅微院 測候所
- 農事試驗場
- 水產試驗場

三十四年訓令甲第十六號ヲ以テ本條ヲ追加ス
全號ヲ以テ改メ又但書追加

農事講習所
明野勸農場

縣ノ所有又ハ保管ニ屬スル有價證券及物品取扱ニ關スル規程ノ帳簿並ニ計算書ノ書式左
之通相定ム

(美濃摺用紙)

備 品 出 納 簿

何 所

(美濃摺用紙)

消耗品出納簿何所

何所

索引

年月日	摘要	區分	受高	拂高	殘高	炭	罫紙	品目	丁數	品目	丁數
	炭							炭	四〇	罫紙	一

月	日	年	前年度ヨリ越高	數量	價格	總計
月	日	年	何某渡			一五〇,五〇〇
月	日	年	何某渡			三〇,一〇〇
月	日	年	何某渡			八〇,五〇〇
月	日	年	何某渡			一六,一〇〇
月	日	年	何某渡			一五,五〇〇
月	日	年	何某ヨリ購入			三,一〇〇
月	日	年	何某ヨリ購入			一六,〇〇〇
月	日	年	何某ヨリ購入			三三,二〇〇
月	日	年	何某渡			五六,〇〇〇
月	日	年	何某渡			一一,二〇〇
月	日	年	何某渡			五六,〇〇〇
月	日	年	何某渡			一五,〇〇〇
月	日	年	何某渡			一五,〇〇〇
月	日	年	何某渡			三九,〇〇〇
月	日	年	何某渡			一一,二〇〇

(美濃摺用紙)

有價証券出納簿

何所

明治何年度

又ハ(自明治何年何月何日
至明治何年何月何日)

物品及有價証券出納計算書

何所

品目	單位	區分	越	高	受	高	拂	高	現		備
									出納	取扱	
備品	稱呼	越	高	受	高	拂	高	計	高	計	考
何椅子	脚	數量	二七,〇〇〇	八,〇〇〇	八,五〇〇	三	五	九	二六,五〇〇	一七,〇〇〇	一帖ノ内二脚何々ノ事故ニヨリ何々ナルヲ以テ何某ヨリ其賠償ヲ命
何々	全	全	、	、	、	、	、	、	、	、	
消耗品											
郵紙帖	數量	數量	三三〇	四〇〇	五六〇	九〇					一帖ノ二十枚トス
何紙枚	全	全	一〇〇	二五〇	三〇〇	五〇					
炭	貫匁	全	一五〇,五〇〇	一〇〇,五〇〇	一五〇,〇〇〇	五六,〇〇〇					
何々本	全	全	三〇,一〇〇	二〇,一〇〇	三六,〇〇〇	〇					
	全	全	一五〇	〇	〇	五					

有價証券	公債証券	枚		何々株券
		數量	價格	
		10	500,000	全
		三	100,000	全
		五	300,000	全
		七	300,000	全

明治何年度(又ハ明治何年何月何日ヨリ明治何年何月何日迄)縣有物品及保管ニ屬スル有價証券出納計算書面之通リ候也

年月日

何所出納吏

官職氏

名印

前記計算書ノ員數ハ帳簿及現品ニ對照スルニ一モ相違ノ件ナシ右保証候也

年月日

検査員

官氏

名印

一 証憑書ハ備品消耗品有價証券等各別冊ニ編綴シ尙ホ之ヲ受拂ニ區分整理スルヲ要ス
 一 証憑書ハ各種目毎ニ白紙ヲ挿入シ其合計高ヲ表記スヘシ
 ○三重縣訓令甲第八十一號 三十三年八月三十一日

警察署 全分署

牛乳營業取締ニ關スル施行手續左ノ通定ム

牛乳營業取締ニ關スル施行手續

第一條 細則第四條ノ工事検査ヲ爲シタルトキハ其ノ狀況ヲ警部長ニ報告スヘシ
 第二條 細則第十七條ノ鑑札ハ左ノ雛形ニ依ルヘシ

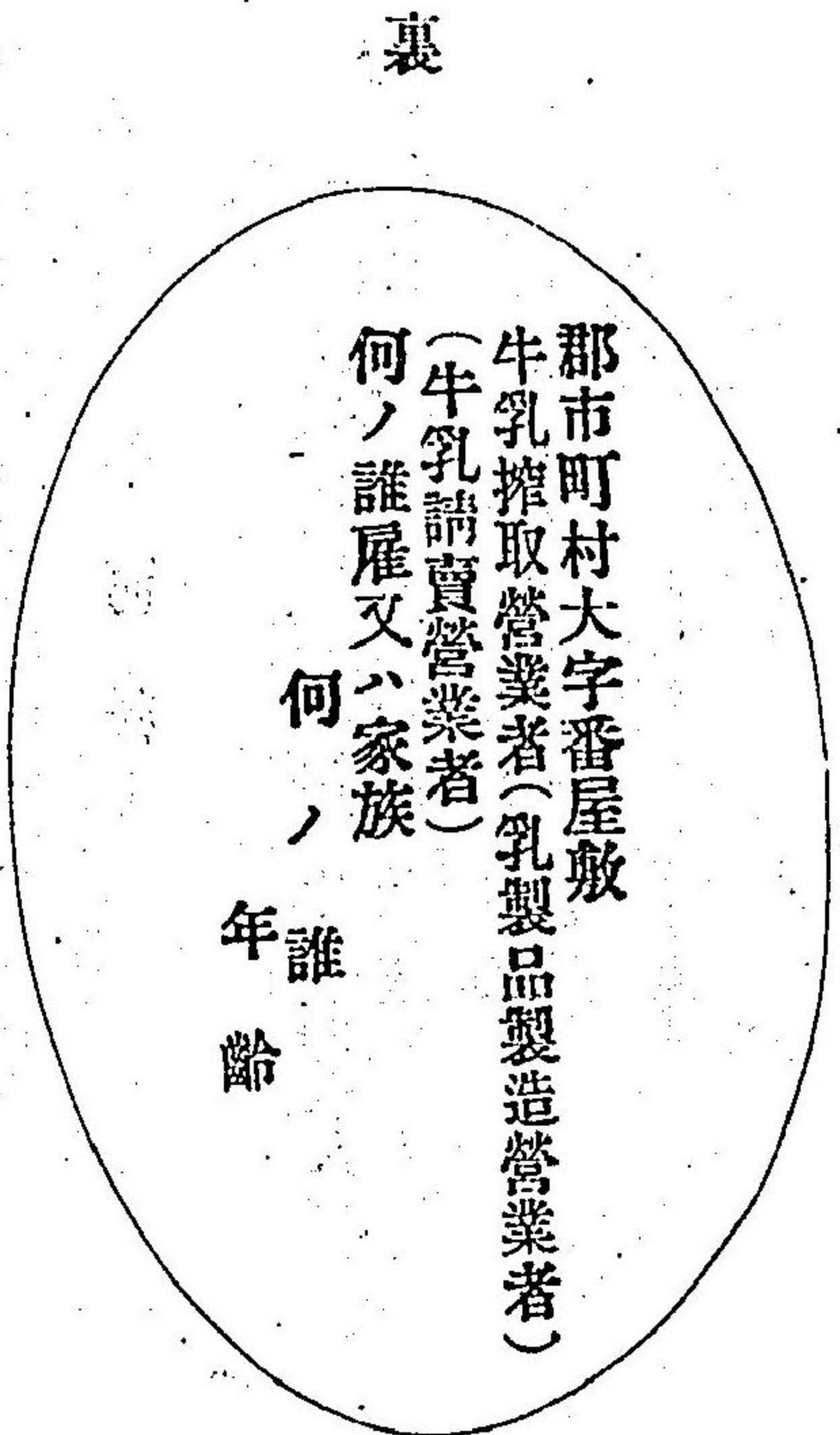
橢圓形 豎三寸以下 用材及厚適宜
 横二寸以下

第何號

表

牛乳配達又ハ (牧夫) (牛乳搾取人) 鑑札
 (乳製品製造人) 鑑札

明治何年何月何日 署名
 烙印



第三條 營業臺帳ハ左記各號ニ依リ登録シ異動アル毎ニ加除訂正スヘシ

一 搾取營業者、乳製品製造營業者、請賣營業者、牧夫、搾取人、配達人、乳製品製造人、搾取場、乳製品製造場、畜牛ノ各部門ニ分ツモノトス但シ營業者少數ナルトキハ便宜數部門ヲ合併スルモ妨ナシ

二 搾取營業者、乳製品製造營業者、請賣營業者ノ部ニハ認可年月日又ハ届出年月日住所氏名年齢等ヲ記入シ尙請賣及牛乳ヲ買入乳製品ヲ製造スル營業者ハ其ノ買入先ヲモ記入スルモノトス

三 牧夫、搾取人、配達人、乳製品製造人ノ部ニハ鑑札面ニ掲載スヘキ事項ヲ記入スルモノトス

番號ハ數年通シテ用ウヘシ若シ欠番號ヲ生シタルトキハ新規番號ヲ付スル毎ニ補填スルモノトス

四 搾取場、乳製品製造場ノ部ニハ營業者ノ住所氏名位置認可年月日構造ノ概畧等ヲ記入スルモノトス

五 畜牛ノ部ニハ營業者ノ住所氏名畜牛ノ種類符號年齢毛色特徴等ヲ記入スル者トス

第四條 細則第六條第七條ノ届出アリタルトキハ其ノ畜牛ノ種類符號年齢毛色特徴買入先及増減異動ノ年月日事由等ヲ記シ速ニ警部長ニ報告スヘシ

第五條 搾取場、乳製品製造場ニハ毎月一回以上臨檢シ法令ヲ遵守スルヤ否ヲ視察スヘシ

第六條 細則第九條ノ届出ヲ受ケタルトキハ獸醫ヲシテ牛乳中ニ移行スヘキ劇毒藥服用中ノモノニアラサルヤ否ヲ調査セシムヘシ

第七條 規則第十四條ニ依リ牛角ニ烙記スヘキ符號ハ左記雛形ノ烙印ヲ用ウヘシ耳環ハ烙印ヲ施スコト能ハサル場合ノ外之ヲ付スヘカラス

圓形 徑七分 病

前項烙印ノ消除ヲ許可スルトキハ原符號ヲ除去セシメ若ハ左記雛形ノ烙印ヲ押捺スヘ

シ
楕圓形 豎七分 横五分 (消)

第八條 検査ニ於テ搾取、製造、販賣、授與若ハ使用ヲ禁止シ牛乳又ハ乳製品ノ廢棄處分ヲ爲シタルトキハ警部長ニ即報スヘシ禁錮又ハ罰金ノ刑ニ當ル違反事件ヲ告發シタルトキ亦同シ

第九條 營業ノ禁止又ハ停止ヲ必要ト認メタルトキハ知事ニ具狀スヘシ

第十條 畜牛牛乳又ハ乳製品ノ検査成績書ハ一ヶ月分ヲ取纏メ翌月十日限警部長ニ報告スヘシ

但シ牛乳試験ノ成績ニ關シテハ明治三十二年(十月)警訓第百二十五號ノ雛形ニ依ル

第十一條 牛乳搾取販賣高又ハ乳製品製造販賣高ハ毎年一月七月ノ兩度ニ前半箇年表ヲ製シ二十日限警部長ニ報告スヘシ

○三重縣訓令甲第八十二號 三十三年九月廿八日

- 郡市役所 警察署
- 警察分署 監獄支署
- 縣立學校 驅微院
- 明野勸農場

- 農事講習所
- 農事試驗場
- 測候所 水産試驗場

明治三十三年(三月)本縣訓令甲第三十四號別冊旅費支給ニ用フル里程表中別表之追加
シ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス
(別表)

市	日	四
鹽濱村楠	村	河原田町日永村内部村小山田村水澤村四鄉村川島村常磐村
櫻	村	菰野村鵜川原村千種村縣村神前村三重村海藏村朝上村竹永村
市	保々村八鄉村大矢知村朝日村富洲原村羽津村下野村川越村富田村	
市		

●三重縣訓令甲第八十三號 三十三年九月廿九日

警察署 同分署

明治三十年(三月)本縣訓令甲第二十二號物品出納順序ハ明治三十三年九月三十日限り廢止ス

●三重縣訓令甲第八十四號 三十三年九月廿九日

監獄支署

明治三十二年(四月)三重縣訓令甲第四十號ハ明治三十三年九月三十日限り廢止ス

(參照) 國庫ニ屬スル保管物品ヲ取扱フ物品會計官吏ニ關スル件

○三重縣訓令甲第八十五號 三十三年十月二日

市役所 町村役場

明治三十三年(十月)告示第五百五十號ニ依リ差出シタル小學校教員ノ無試驗檢定願書ヲ市町村長ニ於テ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査記載シ願書ニ添付進達スヘシ

一 明治三十三年文部省令第十四號第四百四條各號ニ該當スルヤ否

二 操行ノ概要

三 族籍氏名生年月等相違ナキヤ否

○三重縣訓令甲第八十六號 三十三年十月十二日

郡市役所

今般本縣告示第五百五十四號ノ通海軍志願兵徵募相成候ニ付右志願者アルトキハ條例ニ照シ之ヲ調査シ其適合スル者ハ左ノ書式ニ依リ人名表ヲ調製シ明治三十三年十二月十五日迄ニ當廳ニ報告スヘシ

迄ニ當廳ニ報告スヘシ

何郡市海軍志願兵人名表

兵種	現住所	就學程度	職族業	氏名	生年月日
水兵	何郡市町村大字何	小學高等(尋常)全科卒業	何府縣士族(平民)農	何某	明治何年何月何日
機關兵	同上寄留	全何年級卒業	全商	全	全

右報告候也

年月日

知事宛

何郡市長 氏 名 印

○三重縣訓令甲第八十七號 三十三年十月十二日

市役所 町村役場

常設ト假設トヲ問ハス市町村傳染病院、隔離病舎、豫防事務所ヲ開始シタルトキハ左ニ示シタル日誌ハ患者名簿ヲ設備スヘシ

但當分ノ内赤痢、虎列刺、ペストノ三種ニ適用ス

一病症日誌

本誌ハ醫員ノ担当トシ左ノ事項ヲ記載スルモノトス但シ病院病舎ヲ開始セス單ニ豫防

事務所ヲ開始シタルトキハ醫師ニ於テ差支ナキ限リ豫防事務所ニ設備シ置クヲ要ス

一 診察日時

二 患者氏名病名症狀

三 診察醫氏名

一傳染病院（隔離病舎）（豫防事務所） 日誌

本誌ハ事務員之ヲ担当シ左ノ事項ヲ記載スルモノトス但シ第一號第二號ハ日誌中特ニ見出ヲ付シ各別ニ記載シ置クヲ要ス

一 病院病舎豫防事務所ノ開閉

二 醫員調劑掛看護人小使人夫等ノ雇入雇解及事務員ノ當非直

三 購入物品ノ名稱數量價格買入先

四 巡視吏員ノ官職氏名及其ノ時刻

五 巡視吏員ヨリ指示シタル事項ノ概要

六 豫防消毒上特ニ施行シタル事項

七 當日服務ノ概要

八 以上ノ外他日參考トナルヘキ事項

一患者名簿

本簿ハ事務員之ヲ担当シ左式ニ依リ登録シ病院又ハ病舎ニ設備スルモノトス

入院入舎ノ年月日時	市町村	大字	番屋敷	病名	患者氏名	年齢	退院退舎ノ年月日時	死亡年月日時
-----------	-----	----	-----	----	------	----	-----------	--------

○三重縣訓令甲第八十八號 三十三年十月二十日

警察署 同分署

貸座敷取締規則施行手續左ノ通之ヲ定ム

貸座敷取締規則施行手續

第一條 規則第七條ニ依リ許可セザリシキハ事由ヲ詳記シ警部長ニ詳具シ指揮ヲ受クヘシ

第二條 規則第八條ノ處分ヲ要スト認ムルトキハ知事ニ具狀スヘシ

第三條 規則第十四條ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ警部長ニ詳具シ指揮ヲ受クヘシ

第四條 臺帳ハ別記様式ニ依リ一免許區域各別ニ調製スヘシ

但營業者少數ナルトキハ一冊ト爲シ索耳ヲ付シ置クヘシ

第五條 組合規約認可ノ申請ヲ受ケタルトキハ警部長ニ稟議ノ上認可スヘシ

第六條 組合規約ニハ左ノ事項ヲ規定セシムヘシ

一 取締人ノ任期及選舉方法

二 會議ノ方法

三 取締以下ノ報酬

四 組合費用ノ收支方法

- 五 違約者處分
- 六 娼妓自衛の病毒豫防及正業ニ復スル設備方法
- 七 席貸料及娼妓揚代金
- 八 右ノ外營業上必要ノ事項
- 第七條 組合取締人ヲ認可シタルトキハ其ノ氏名ヲ警部長ニ報告スヘシ
- 貸座敷臺帳様式 (用紙美濃紙)

第	本籍	府縣郡市町村大字番屋敷身分		家號	壽樓(朱記)
	營業場所	府縣郡市町村大字番屋敷		氏名	何之誰
免許	年	月	日	廢業	年
	業務擔當人	府縣郡市町村大字番屋敷身分			
本籍氏名年齢	何之誰				
	年月日生				
支店	認可	年	月	日	場所
	廢店	年	月	日	家號
備考	府縣郡市町村大字番屋敷 紅鶴樓(朱記)				

○三重縣訓令甲第八十九號 三十三年十月二十日

警察署 全分署

娼妓取締施行手續左ノ通り之ヲ定ム

娼妓取締施行手續

- 第一條 娼妓名簿ハ別記様式ニ依リ一免許區域各別ニ調製スヘシ但シ娼妓少數ナルトキハ一冊ト爲シ索耳ヲ附シ置クヘシ
- 第二條 登録證ハ別記様式ニ依リ調製下付スヘシ
- 第三條 娼妓名簿ノ削除ヲ申請スル者アルトキハ署長又ハ代理者ニ於テ規則第十三條第六號ニ抵觸ノ有無ヲ調査シ差支無シト認ムル者ニ限り削除ノ手續ヲ爲スヘシ
- 前項ノ申請口頭ニ係ルトキハ署長又ハ代理者ハ調書ヲ作り署者捺印セシムヘシ
- 第四條 細則第三條ニ依リ稼業ヲ禁止若クハ停止スルノ必要アリト認ムルトキハ知事ニ具狀スヘシ
- 娼妓名簿ノ登録ヲ拒ミタルトキハ事由ヲ詳記シ其都度警部長ニ報告スヘシ
- 第五條 細則第八條ニ依リ名簿ヲ削除シタルトキハ登録及ヒ削除年月日其他參考トナルヘキ事項ヲ詳記シ直ニ移轉地所轄警察官署ニ通牒スヘシ
- 第六條 娼妓ノ健康診断ニハ必要ノ場合警視、警部又ハ巡查部長臨監スヘシ
- 第七條 組合格約認可ノ申請ヲ受ケタルトキハ警部長ニ稟議ノ上認可スヘシ

娼妓名簿樣式 (用紙美濃紙一枚二人詰)

第	氏名	氏名(朱記)		何之誰
	年齡			年月日生
本籍身分	府縣郡市町村大字番屋敷士族平民			
	府縣郡市町村大字番屋敷何ノ誰方			
登錄後ノ住所	府縣郡市町村大字番屋敷何ノ誰方			
稼場所	市町村大字小字			
登錄年月日	年	月	日	
名簿刪除ノ年月日事由	年	月	日	事由
	年	月	日	事由
從前娼妓稼ヲ爲シタル者ノ開廢年月日場所住居	開	年	月	日
	廢	年	月	日
備考	府縣郡市町村大字番地何ノ誰方			

番號

登錄証

姓名 何之誰 生年月日

右娼妓名簿ニ登錄

明治 年 月 日

何警察署印

(用紙半野紙)

○三重縣訓令甲第九十號 三十三年十月二十三日

警察署 全分署

工場ノ災害事故ニ關スル報告方左之通相定ム本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 職工徒弟十人以上ヲ雇使スル工場及其寄宿舎其他ノ附屬建設物ニ於テ災害其他ノ事由ニ
 因リ死亡者又ハ負傷者ヲ生シタルトキハ別記ノ事項ヲ調査シ翌月十日迄ニ當廳ニ報告ス
 ヘシ但シ負傷者ヲ生シタルモ其負傷ノ程度業務ヲ繼續シ得ヘキ場合又ハ災害其他ノ事故
 ノ生シタル日ノ翌日ヨリ起算シ三日内ニ復業シ得ヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス
 職工徒弟十人以上ヲ雇使スル工場及其寄宿舎其他ノ附屬建設物ニ於テ火災アリタル并又
 ハ建物、煙突、高架槽、傳動裝置、汽罐、汽機、機械類ニ大ナル毀損ヲ生シタルトキハ
 死傷者ヲ生セサルモ其都度別記ノ事項ヲ調査シ災害其他ノ事故ヲ生シタル日ヨリ七日内

ニ當應ニ報告スヘシ
汽罐類ノ破裂アリタルトキハ職工徒弟十人以上ヲ雇便スル工場ニ於ケルト其他ノ工場ニ於ケルトニ拘ハラヌ前項ニ依リ報告スヘシ

前各項ノ場合ニ於テ事体重大ナルトキハ其概況ヲ急報スヘシ

(別記事項)

一工場ノ名稱、所在及工業主ノ氏名

二工業ノ種類

三災害其ノ他事故ノ生シタル日時、場所、其原因及狀況

四死傷者アルトキハ其本籍、氏名、年齢及職名

五死亡者アルトキハ其致死ノ原因、負傷者アルトキハ其負傷ノ部位、症狀、經過等及救護ノ顛末

六死傷者被害ノ原因、場所、其當時從事シタル仕事ノ種類及取扱ヒタル機械器具ノ種類又ハ其部分

火災又ハ建物、煙突、高架槽等ノ崩壞毀損ニ關シテハ前各號ノ外尙左ノ事項ヲモ取調報告スルヲ要ス

七建造物ノ位置、構造及材料(平屋、二階、三階等ノ區別煉瓦造、石造、土藏造、塗上造、木造又ハ以上ノ混成等但鉄骨又ハ鋼鉄骨ナルトキハ其旨ヲ附記ス)

八火災ヲ發見セシ當時ノ狀況及其際ニ施セシ防禦方法及并避難順序

九避難ノ設備(出入口、昇降口、非常口、階段ノ配置及構造、扉ノ開閉方、避難器ノ種類及配置等)

十火災豫防ノ設備(防火壁ノ構造、防火塗劑ノ用否、自動消火器、消火用自動唧筒其他ノ消火器ノ種類個數等)

十一給水ノ狀況

汽罐ノ破裂毀損ニ關シテハ前第一號乃至第六號ノ外尙左ノ事項ヲモ取調報告スルヲ要ス但製系用蒸釜若ハ二重底蒸釜等汽壓ヲ使用スル者ノ破裂毀損ニ關シテモ亦之ニ準ス

十二汽罐ノ製作年月、製作地及製作者

十三最近ノ水壓試驗明細書

(一) 試驗ヲ爲セシ年月日

(二) 試驗ヲ爲セシ責任者

(三) 水壓試驗ノ最高壓力及之ヲ保持セシ時間

(四) 試験成績

十四汽罐修繕ノ有無其年月日、汽罐ノ部分、修繕ノ方法及并修繕ヲ爲セシ人名

十五舊罐ヲ購入セシモノナレハ其沿革

十六災害ノ當時現ニ蒸汽ヲ使用セシヤ否使用セシモノナレバ其用途及壓力

十七汽罐ノ明細書

- (一) 汽罐ノ種類
- (二) 汽罐ヲ製作セシ材料ノ種類
- (三) 罐体ノ寸法
- (イ) 罐胴焰筒ノ直徑
- (ロ) 罐ノ長
- (ハ) 罐板ノ種類及厚サ胴板、鏡板、焰筒
- (ニ) 管
 - 厚、長、直徑、箇數、
- (ホ) 接合
 - 周圍、縱
- (ヘ) 鉸鉸ノ直徑并心距
- (ト) 支柱ノ種類、構造、寸法
- (四) 安全弁ノ個數及種類口徑、錘ノ重量、錘桿上ノ位置并錘桿ノ寸法(又ハ發條ノ壓力)
- (五) 給水器ノ種類及個數
- (六) 常用壓力

(七) 燃料ノ種類

(八) 爐格ノ面積

十八破裂又ハ毀損前ニ於ケル汽罐ノ異狀

十九破裂又ハ毀損後ニ於ケル汽罐ノ形狀并其繪圖若クハ寫真

二十專任取扱者及汽罐ノ破裂又ハ毀損セシ當時之ヲ取扱ヒシ者ノ氏名并其履歷ノ概要

○三重縣訓令甲第九十一號 三十三年十月三十日

警察署、同分署

警察署保管物品出納規程左ノ通相定ム

警察署保管物品出納規程

第一條 政府ニ於テ保管ノ義務アル拾得物、埋藏物、徵收物、沒收品、犯罪者置去品、犯罪證據品、留置人携帶品等ノ出納ハ明治三十三年(十月)內務省訓令第三十號ニ據リ之ヲ取扱フヘシ

第二條 物品出納ノ命令ハ警察署長警察分署長ニ於テ之ヲ發スヘシ

第三條 物品會計官吏ハ警察署長警察分署長ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 物品會計官吏ハ保管物出納簿ニ據リ出納計算書ヲ調製シ年度經過後若クハ物品會計官吏交替後一箇月以内ニ之ヲ當廳ヘ進達スヘシ

出納計算書ニハ証憑書トシテ命令官ノ受拂保證書ヲ添付スヘシ

第五條 本規程ハ明治三十三年十月ヨリ施行ス

○三重縣訓令甲第九十二號 三十三年十一月九日

警察署 監獄支署

歳入歳出外ノ現金ヲ取扱フ出納官吏ハ各警察署長ヲ以テ之ニ充ツ

但明治三十二年(四月)三重縣訓令甲第二十九號ハ之ヲ廢止ス

○三重縣訓令甲第九十三號 三十三年十一月九日

監獄支署

監獄支署作業場ニ於テ災害事故ノ生シタルトキハ明治三十三年(十月)三重縣訓令甲第九

十號ニ準シ調査報告スヘシ

○三重縣訓令甲第九十四號 三十三年十一月十六日

郡市役所 警察署

警察分署 縣立學校

驅微院 縣金庫

明治二十三年(三月)三重縣訓令甲第二十六號明治三十三年度三重縣歳入歳出科目歳出經常部第七款教育費第五項第四中學校費第二目雜給中勉勵賜金ノ次ニ死亡賜金ノ節ヲ追加ス

○三重縣訓令甲第九十五號 三十三年十二月四日

郡役所 警察署

警察分署 市役所

町村役場

「ペスト」豫防ニ關シテハ曩ニ屢訓令スル所アリ官民一致ノ盡力ニ依リ幸ニ縣下ニ於テ患者ノ發生ヲ見サリシト雖モ今ヤ再ヒ大阪市ニ五十余名ノ患者ヲ出シ尙蔓延ノ兆アルノミナラス和歌山縣ニ於テモ既ニ該患者ヲ出セリ殊ニ該地方ト交通ノ利便アル本縣ノ如キハ之カ豫防上一層警戒ヲ加フルノ必要アリ固ヨリ各地ニ於テモ充分警戒ヲ加ヘ相當ノ措置アルヘシト雖モ特ニ明治三十三年(五月)三重縣訓令甲第五十二號及全第五十三號ヲ以テ訓令セシ事項ハ「ペスト」病毒傳播ノ系路ヲ絶ツニ於テ最モ緊切ナルヲ以テ此際嚴重ニ實施シ豫防上遺算ナキヲ期スヘシ

○三重縣訓令甲第九十六號 三十三年十二月十四日

郡市役所 町村役場

明治三十三年(十二月)三重縣令第六十號ニ依リ市町村ニ於テ傳染病救治者ノ手當金支給ニ關スル規定ヲ設ケタルトキハ其全部ヲ記載シ市ニ係ルモノハ市長ヨリ町村ニ係ルモノハ町村長ヨリ所屬郡役所ヲ經テ當廳ニ報告スヘシ

○三重縣訓令甲第九十七號 三十三年十二月十八日

郡市役所 町村役場

